

地方独立行政法人岡山市立総合医療センター
第2期中期目標期間の業務実績に関する評価結果報告書

令和4年8月
岡山市

目次

はじめに	1
1. 全体評価	
(1) 評価結果及び判断理由、考慮した事由	2
(2) 全体評価にあたっての意見・指摘等	3
2. 項目別評価（大項目評価）	
第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標 を達成するためとるべき措置	4
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	6
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	7
第4 その他業務運営に関する目標を達成するためとるべき措置	8
中期目標期間における業務実績報告書	
1. 地方独立行政法人岡山市立総合医療センターの概要	10
2. 第2期中期目標期間の取組概要	14
3. 大項目別の業務実績と法人自己評価	15
4. 小項目別の取組実績	31
5. 予算、収支計画及び資金計画における決算状況	90
6. 主な目標値の達成状況	93
<参考資料>	
地方独立行政法人岡山市立総合医療センター業務実績評価の基本方針	97
地方独立行政法人岡山市立総合医療センター中期目標期間評価実施要領	100

はじめに

地方独立行政法人法第28条の規定に基づき、地方独立行政法人岡山市立総合医療センターの第2期中期目標期間（平成30年度～令和3年度）における業務実績の全体について、地方独立行政法人岡山市立総合医療センター評価委員会の意見聴取を行った上で、総合的に評価を実施した。

評価に際しては、「地方独立行政法人岡山市立総合医療センター業務実績評価の基本方針」及び「地方独立行政法人岡山市立総合医療センター中期目標期間評価実施要領」に基づき行った。

地方独立行政法人岡山市立総合医療センター評価委員会委員名簿

	氏名	役職名等
委員長	小川 弘子	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 地域医療人材育成講座 教授
職務代理	松本 安治	地方独立行政法人岡山県精神科医療センター常務理事
	飛山 美保	弁護士
	野田 尚紀	公認会計士・税理士
	平田 洋	岡山市医師会会長

1. 全体評価

(1) 評価結果及び判断理由、考慮した事由

地方独立行政法人岡山市立総合医療センターにおける第2期中期目標期間（平成30年度～令和3年度）の全体評価の結果は、「**全体として中期目標を概ね達成した**」とする。

第2期中期目標期間の業務実績に関する大項目評価については、4ページ以降に詳しく示すように、第1から第4までの全ての項目において、「評価3（中期目標を概ね達成した）」と判断した。

また、全体評価に当たり、特筆すべき優れた項目や課題となった項目は次のとおりである。

- ・ 市民病院については、岡山 ER として平成30年度及び令和元年度に救急患者数・救急応需率とも目標を超える高い水準を維持し、市民の期待に応えてきたこと。また、新型コロナの感染が拡大した令和2年度以降は、第二種感染症指定医療機関及び新型コロナ重点医療機関として多くの陽性患者を受け入れ、令和3年度にはゲノム解析の実施も開始するなど、患者の治療及び感染拡大防止に大いに貢献したこと。
- ・ せのお病院については、平成30年度に全床を地域包括ケア病床とし、急性期病院の後方支援機能を充実させたこと。外来リハビリの充実やMRIの共同利用を推進し、地域医療に貢献してきたほか、病棟カンファレンスによる退院支援の充実を図り、住み慣れた地域での生活継続に貢献したこと。課題となっていた災害時の訓練を令和2年度から実施しているほか、地域医療機関向けの講演会についてもウェブ開催の方法を工夫して令和3年度には計画どおり実施することができたこと。
- ・ 医療の質の向上の面では、徹底した院内感染対策によりコロナ禍にあっても院内感染の封じ込めを実現しているほか、クリニカルパスについては早期に中期計画の目標種類数を達成し、以後も見直しと改訂を継続することで医療の標準化を進めていること。
- ・ 地域医療ネットワークの推進に関しては、医師不足地域への人的支援を継続していること。
- ・ 教育及び人材育成については、岡山大学との連携等により地域医療や救急医療を担う若手医師の育成に大きく貢献していること。
- ・ 業務運営体制の構築の面では、医師をはじめとした多様な人材を確保し、通常の診療体制に加え新型コロナ対応の体制整備も進めることができたほか、研修や資格取得支援の充実により、職員の専門性及び医療技術の向上を図れたこと。一方で、人事評価の実施においては、能力評価を着実に実施した一方で、業績評価制度の実施については課題が残ったこと。
- ・ 財務内容の改善の面では、期間の当初に遅れのあったせのお病院の収支を令和元年度には改善し、以後は新型コロナ対応に関する補助金も活用しながら、法人として経常黒字を維持していること。

以上、大項目評価結果及び特筆すべき項目等を総合的に勘案し、第2期中期目標期間の業務実績に関する全体評価は、「**全体として中期目標を概ね達成した**」とする。

大項目評価結果一覧

大項目	年度評価結果(括弧内は平均評点)				中期目標期間 法人自己評価	中期目標期間 評価
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	3 (3.4)	3 (3.5)	3 (3.6)	3 (3.6)	3	3
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	3 (3.3)	3 (3.3)	3 (3.3)	3 (3.2)	3	3
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	2 (2.5)	3 (3.0)	3 (3.0)	3 (3.0)	3	3
第4 その他業務運営に関する目標を達成するためとるべき措置	3 (3.0)	3 (3.0)	3 (3.0)	3 (3.0)	3	3

(2) 全体評価にあたっての意見・指摘等

- 新型コロナ対応において地域の中心的な役割を果たしつつ、当初の計画を概ね達成しており、本期間に係る法人の取組は評点の数字以上に評価できるものであったと考える。
- 市民病院については、最前線で新型コロナに対応し続けてきたことは非常に高く評価したい。特に、休日の新型コロナ患者の受入れやゲノム解析の実施などは素晴らしい対応であった。
- 新型コロナ対応については今後も市民病院に期待される役割は大きい。経験を活かして頑張っていただきたい。
- せのお病院については、期間中に遅れていた項目があったものの最終年度までに改善できており、順調に計画を遂行していると考ええる。
- 財務については、経常収支比率が年々改善しているが令和2年度以降は新型コロナ関係の補助金の影響が大きい。新型コロナ対応がなくなった後の医業収益の確保について検討を進めていただきたい。

2. 項目別評価（大項目評価）

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置					
評価結果	5 中期目標を大幅に上回る特筆すべき状況にある	4 中期目標を達成した	3 中期目標を概ね達成した	2 中期目標を十分に達成できていない	1 中期目標を大幅に下回っている

小項目評価の集計結果

小項目	H30	R1	R2	R3
1 市立病院として特に担うべき医療				
(1) 市民病院				
ア 救急医療、岡山ER	A	S	S	S
イ 感染症医療	A	S	S	S
ウ 災害医療	A	B	B	B
エ 小児・周産期医療	B	B	B	B
オ セーフティネット機能	B	A	A	A
カ 高度専門医療	A	A	A	A
(2) せのお病院				
ア 地域医療	B	B	A	A
イ 後方支援の役割	B	B	B	B
ウ 初期救急医療の提供	B	B	B	B
エ 地域包括ケアの充実への貢献	B	B	C	B
オ 災害医療	C	C	B	B
2 医療の質の向上				
(1) 安全・安心な医療の提供				
ア 医療安全対策	B	B	B	B
イ 院内感染防止対策	A	S	S	S
ウ 職員の行動規範と倫理の確立	B	B	B	B
(2) 診療体制の強化・充実	A	A	A	A
(3) 医療の標準化の推進				
ア 総合情報システムの活用	A	A	A	B
イ クリニカルパス	A	A	A	A
(4) 調査・研究の実施	A	A	B	B

3 市民・患者サービスの向上				
(1) 患者中心の医療の提供				
ア インフォームドコンセント、セカンドオピニオン	B	B	B	B
イ 薬剤管理指導・栄養食事指導	A	A	A	A
ウ 患者ニーズの把握等	B	B	A	A
エ 紛争解決	B	B	B	B
(2) 職員の接遇向上	A	B	B	B
(3) 市民や患者にわかりやすい情報発信	B	A	A	A
4 地域医療ネットワークの推進				
(1) 地域医療連携の推進	A	A	A	A
(2) 在宅医療を含む地域医療への支援				
ア 在宅医療の推進	B	B	B	B
イ 医師不足地域等への人的支援等	A	A	A	A
5 教育及び人材育成	A	A	A	A
6 保健・医療・福祉連携への貢献				
(1) 保健医療福祉行政への協力	B	C	B	A
(2) 疾病予防の取り組み	B	B	B	B
平均評点	3.4	3.5	3.6	3.6
大項目評価	3	3	3	3

内容及び判断にあたって考慮した事由

中期目標期間の各年度とも小項目評価の平均評点は3点台半ばで推移しており、本項目の大項目評価は、評価3「中期目標を概ね達成した」とする。特に、令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症床対応において市民病院が第二種感染症指定医療機関及び重点医療機関として圏域の中心的役割を果たしてきたことは高く評価したい。

評価に当たり、特筆すべき優れた項目は次のとおりである。なお、期間中に課題を生じた項目についてはいずれも最終年度までに改善されたと認められた。

○ すべての年度において年度計画を上回って実施している項目

- ・ 市民病院（救急医療、感染症医療、高度専門医療）
- ・ 医療の質の向上（院内感染防止、総合的な診療体制の確立とチーム医療の推進、クリニカルパス）
- ・ 市民・患者サービスの向上（薬剤管理指導等）
- ・ 地域医療ネットワークの推進（地域医療連携、医師派遣）
- ・ 教育及び人材育成

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

	5	4	3	2	1
評価結果	中期目標を大幅に上回る特筆すべき状況にある	中期目標を達成した	中期目標を概ね達成した	中期目標を十分に達成できていない	中期目標を大幅に下回っている

小項目評価の集計結果

小項目	H30	R1	R2	R3
1 業務運営体制の構築				
(1) 業務運営体制の構築	B	B	B	B
(2) 多様な人材の確保	A	A	A	A
(3) 外部評価等の活用	B	B	B	B
2 職員のやりがいと満足度の向上				
(1) 研修制度の充実及び資格取得への支援	A	A	A	A
(2) 適正な人事評価制度	B	B	B	C
(3) 職場環境の整備	B	B	B	B
平均評点	3.3	3.3	3.3	3.2
大項目評価	3	3	3	3

内容及び判断にあたって考慮した事由

中期目標期間の各年度とも6つの小項目評価の平均評点は3点を超えており、本項目の大項目評価は、評価3「中期目標を概ね達成した」とする。コロナ禍にあっても人材確保を進め、業務運営体制を構築できた一方で、人事評価制度に関し、計画していた業績評価の導入について課題が残っていると見受けられた。

なお、評価に当たり、特筆すべき優れた項目は次のとおりである。

○ すべての年度において年度計画を上回って実施している項目

- ・ 業務運営体制の構築（多様な人材の確保）
- ・ 研修制度の充実及び資格取得への支援

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

	5	4	3	2	1
評価結果	中期目標を大幅に上回る特筆すべき状況にある	中期目標を達成した	中期目標を概ね達成した	中期目標を十分に達成できていない	中期目標を大幅に下回っている

小項目評価の集計結果

小項目	H30	R1	R2	R3
1 持続可能な経営基盤の確立	B	B	B	B
2 収入の確保及び費用の節減	C	B	B	B
平均評点	2.5	3.0	3.0	3.0
大項目評価	2	3	3	3

内容及び判断にあたって考慮した事由

各年度の大項目評価は、平成30年度が2「中期目標の実現のためにはやや遅れている」、令和元年度以降は3「中期計画の実現に向けて概ね計画どおり進んでいる」となった。平成30年度に評価を下げる要因となったせのお病院の収支については翌年度には改善しており、以後は2病院とも経常収支比率の改善が続いていることなどから、本項目の大項目評価は、評価3「中期目標を概ね達成した」とする。ただし、令和2年度以降の市民病院の経常収支は新型コロナ関係の補助金の影響を大きく受けており、新型コロナ後の医業収益の確保について検討を進めていただきたい。

第4 その他業務運営に関する目標を達成するためとるべき措置

	5	4	3	2	1
評価結果	中期目標を大幅に上回る特筆すべき状況にある	中期目標を達成した	中期目標を概ね達成した	中期目標を十分に達成できていない	中期目標を大幅に下回っている

小項目評価の集計結果

小項目	H30	R1	R2	R3
1 健康・医療・福祉を核としたまちづくりへの貢献	B	B	B	B
平均評点	3.0	3.0	3.0	3.0
大項目評価	3	3	3	3

内容及び判断にあたって考慮した事由

各年度とも大項目評価は3「中期計画の実現に向けて概ね計画どおり進んでいる」となった。隣接の健康・医療・福祉関係施設を活用した講座等を開催しており、第2期中期目標期間の大項目評価は、評価3「中期目標を概ね達成した」とする。

地方独立行政法人岡山市立総合医療センター
中期目標期間における業務実績報告書

第2期（平成30年4月1日～令和4年3月31日）

令和4年6月
地方独立行政法人岡山市立総合医療センター

1. 地方独立行政法人岡山市立総合医療センターの概要

(1) 法人名

地方独立行政法人岡山市立総合医療センター

(2) 本部の所在地

岡山市北区北長瀬表町三丁目 20 番 1 号

(3) 役員状況（平成 30 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日）

役職名	氏名	備考
理事長	松本 健五	岡山市立市民病院長兼務
常務理事	片山 伸二	法人本部長兼務 法人本部事務局長兼務
理 事	平成 30 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日	岡山大学理事
	金澤 右	岡山大学病院長
	令和 3 年 4 月 1 日～	岡山大学理事 岡山大学病院長
	前田 嘉信	地方独立行政法人玉野医療センター理事
	東 良平	独立行政法人国立病院機構 岡山医療センター名誉院長
	平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日	岡山県公安委員
	正野 隆士	
	平成 31 年 4 月 1 日～	岡山商工会議所専務理事
	高橋 邦彰	岡山県商工会議所連合会専務理事
	今城 健二	岡山市立市民病院副院長兼務
	平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日	岡山市立市民病院副院長兼務
	小野 まさ子	
	平成 31 年 4 月 1 日～	岡山市立市民病院副院長兼務
	臼井 正明	

監 事	吉沢 徹	弁護士
	大倉 宏治	公認会計士・税理士

(4) 運営する病院

病院名	所在地	病床数
岡山市立 市民病院	岡山市北区 北長瀬表町三丁目 20 番 1 号	400 床
		・ 一般病床 387 床
		・ 結核病床 7 床 ・ 感染症病床 6 床
岡山市立 せのお病院	岡山市南区 妹尾 850 番地	平成 30 年 4 月 1 日～4 月 30 日
		60 床
		・ 一般病床 8 床 ・ 地域包括ケア病床 52 床
		平成 30 年 5 月 1 日～
		・ 一般病床 ー ・ 地域包括ケア病床 60 床

(5) 職員数（各年度 4 月 1 日現在の状況）

区分	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
特別職	2 人	2 人	2 人	2 人
正規職員	713 人	707 人	707 人	733 人
嘱託職員	37 人	40 人	44 人	39 人
再雇用職員	8 人	14 人	17 人	24 人
非正規職員	275 人	304 人	307 人	273 人
計	1,035 人	1,067 人	1,077 人	1,071 人

※岡山市からの派遣職員を含む

※職員を兼ねる役員を含む

(6) 入院及び外来患者数（各年度末における延べ患者数）

①入院患者数

病院名	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
岡山市立市民病院	138,948 人	137,338 人	106,345 人	111,820 人
岡山市立せのお病院	18,066 人	19,426 人	19,000 人	19,037 人

②外来患者数

病院名	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
岡山市立市民病院	149,459 人	155,505 人	121,112 人	133,659 人
岡山市立せのお病院	16,884 人	16,495 人	13,003 人	13,726 人

(7) 基本的な目標等

地方独立行政法人岡山市立総合医療センターは、岡山市の医療政策として求められる救急医療、感染症医療、災害時における医療及び高度医療の提供、地域医療の支援等を行うことにより、岡山市内における医療水準の向上を図り、もって市民の生命と健康を守ることを目的とし、市民に必要とされる医療を確実に実施する。

また、柔軟で迅速な人材確保など、機動性・弾力性が高く、自律的な経営を実践するとともに、市民へのより良い医療の提供と、より効果的・効率的な病院運営を行い、地域医療の推進のための重要な役割を担うことにより、岡山市長から指示された中期目標を達成する。

(8) 基本理念

心技体

- ・心の通い合う医療の提供
- ・質の高い安全な医療の提供
- ・健全で自立した経営と働きやすい職場

(9) 基本方針

【岡山市立市民病院】

私たちは、市民に信頼され、期待される病院であり続けるために、次のことを実践します。

1. 患者中心の医療

患者に対し十分な説明と同意のもとに医療を提供し、かつ、診療情報を積極的に公開し、患者の尊厳・権利を尊重する患者中心の全人的医療を行います。

2. 医療水準の向上

総合的医療機能を基盤に、高度・特殊・先駆的医療等を担い、さらに地域医療を担う医師の育成、医療従事者の研修の場としての役割を果たし、地域の医療水準の向上に努めます。

3. 安全な医療

患者に安心と信頼をもたらす医療を提供し、また、職員に希望と誇りを育み、充実して働きやすい職場環境を推進します。

4. 地域医療への貢献

地域の医療機関との連携を密にし、また、救急医療を積極的に推進し、市民に愛され信頼される地域の中核病院としての役割を果たします。

5. 健全経営の確保

自治体病院に期待される健康危機管理機能の強化等の公共性を確保するとともに、合理的かつ効率的な病院経営に努めることにより、健全で自立した経営基盤を確立します。

【岡山市立せのお病院】

- ・医療を受ける人の立場に立ち、心のこもった医療を実践します。
- ・患者の権利を尊重し、満足のいく医療を行います。
- ・健全な病院経営に努め、良質な医療サービスを提供します。
- ・保健、福祉、医療の連携のもとに、安心して生活できる地域づくりを推進します。
- ・職員の医療人としての資質の向上に努めます。

2. 第2期中期目標期間の取組概要

はじめに、第2期中期目標期間中に世界規模で発生した新型コロナウイルス感染症（以下「新型コロナ」という）が、当法人の中期計画実施に多大な影響を与えたことが大きな特徴となっている。具体的には、当法人への新型コロナの影響は、令和2年度から顕著となり、新型コロナ患者への対応や感染対策のための設備、医療機械等の調達、また、集合研修や公開講座等の制限、入院患者の受入病床の増加による一般患者の受入制限等、収支にも多大の影響を及ぼした。また、発熱外来の設置、PCR検査の実施、ワクチン接種会場の開設や重症までの新型コロナ患者の受入れを岡山県や保健所とも連携して市立病院としての責務を果たせるように尽力した。なお、新型コロナ関連の補助金として施設改修費、機器購入費や空床補償費等による収益があった。

第1期中期目標期間に引き続き運営基盤の強化のため、患者に直接関連する業務を総括的に管理・調整する部門として「入退院管理支援センター」を新設し、業務効率と部署間連携を強化した。病床管理においてはポータルサイト等を利用して常に情報を共有し、全職員が稼働率を意識できるようにした。

医療の質の向上については、各種会議や研修を実施しており、コロナ禍においてもeラーニング等を活用し啓発を行ってきた。特にコロナ禍においては、情報共有や厚生労働省からの通知を基に多くのマニュアルを整備し、院内感染の発生を防いだ。またその感染対策のノウハウをもとに近隣病院に対しての指導も実施した。教育の質の向上については、新型コロナの影響でリモートによる研修も実施したが、目標回数は下回った。

法人本部に経営推進室を新たに設置し、人事課と財務課を市民病院から本部所属とし、法人全体における課題を組織として検討・対応できるよう本部機能を強化した。

新型コロナには法人組織全体で対応するため、対策本部を設置し、実働組織として多職種によるコロナ現場対応検討チームを結成した。さらにチーム内に役割ごとの部会を設け、個別課題にも即時に対応できるようにした。

市民病院においては、当期間前半は救急患者数や救急車応需率の目標を達成していたが、令和2年度以降の後半ではコロナ禍の影響を大きく受けベッドコントロールにより極力患者受入れを行えるように努めたにもかかわらず目標を達成できなかった。しかし第二種感染症指定病院として、また、新型コロナ重点医療機関として新型コロナ患者の受入れやマスコミを通じて市民への啓発も実施し、責務を果たした。さらに毎週定期開催するweb会議により、岡山県や保健所、他医療機関との連携や情報交換を行った。そうした厳しい中ではあったが、高度専門医療についてはこれまでの水準を維持するように努めた。

せのお病院においては、高度専門医療を行っている急性期病院の後方支援の役割を果たすため、平成30年5月から全床を地域包括ケア病床とした。さらに災害対策として業務継続計画（BCP）の策定や訓練の実施、老朽化した設備の改修等を行った。

3. 大項目別の業務実績と法人自己評価

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

法人自己評価	5 中期目標を大幅に上回る特筆すべき状況にある
	4 中期目標を達成した
	3 中期目標を概ね達成した
	2 中期目標を十分に達成できていない
	1 中期目標を大幅に下回っている

(1) 業務実績

市民病院において、新型コロナの影響により令和2年度以降は救急患者数、救急応需率共に目標達成が困難であったが、感染防止対策を経てwalk in患者への医療供給体制確保や救急患者受け入れのための集中治療部・救急病床の体制強化を図った。岡山ERの機能として、重症救急（三次適応救急）に関する初期診療の実施や岡山大学病院、岡山赤十字病院等の近隣の第三次救急医療機関との連携により、市民病院で診断・初期治療後に転院搬送する運用も行った。

二類感染症の受入体制については、結核排菌患者の受入れを含めて24時間365日堅持できており、県南東部医療圏を守る機能を果たし、岡山県からの依頼による感染症移送ネットワークに係る感染症対策にも対応した。また、備前保健所健康危機管理対策地域連絡会議や岡山市感染症診査協議会、大都市感染症指定医療機関病院長・事務長会議等に継続して参加し、第二種感染症指定病院として責務を果たした。

令和2年以降、新型コロナについては岡山市保健所及び岡山県との連絡を緊密に行い、厚生労働省からの通知に迅速に対応して院内体制を構築し、県内発生に対応した。マスコミ対応の徹底により市民への啓発を行い、疑似症例・陽性確定例の患者を行政の要請に従い受け入れた。新型コロナの重点医療機関の指定を受け、受け入れのための設備工事、検査機器の整備、体制の構築等を行い、行政の要請に対応し県下トップクラスの陽性患者を受け入れた。またワクチン事業や検査・診断体制を構築し中期目標の期間を通じて体制を堅持した。

災害医療については、被災地への災害派遣医療チーム（DMAT）派遣の実施、隊員の継続的な訓練、新規DMAT隊員の養成を行った。また、職員のスキルアップのため、災害医療研修にも積極的に参加し、災害医療救護訓練や災害対応訓練エマルゴを用いた訓練も行った。

新型コロナの影響で災害関連の各種研修等が中止となったが、事業継続計画（BCP）に基づいた訓練、災害発生時の医療活動に備えた医薬品、水、食料等の備蓄等の維持管理は継続した。また、新型コロナ禍では重点医療機関指定を受け、重症患者の受け入れ、発熱外来の設置を行って患者に対応し、その役割を果たした。

小児医療については、小児科常勤医師3名の体制で、一般小児医療とともに主としてアレル

ギー診療を通じて周辺医療機関と連携を深め、地域医療に貢献できた。小児の重症疾患、病的新生児等においては高次医療機関へ紹介・搬送を行い適切な連携と対応ができた。

周産期医療については、産科医師は体制を維持し分娩時も複数医師により安全に出産ができるようになった。ハイリスク妊婦の対応については、高度医療機関との連携を強化し、母体搬送や急性期後の逆紹介等をスムーズに行った。マタニティセンターでは、全妊婦を対象に妊婦指導を行い、医療面・経済面・生活面あらゆる方面の問題点に対応し、安全安心な出産・育児に貢献した。産後ケア入院では患者の産後の不安も解消できた。

セーフティネット機能を果たすため、社会的困窮者の受入れについて常時対応できるよう医療ソーシャルワーカーを配置し、救急や感染症に常時対応できるよう救急医の確保を行った。

「断らない救急」の実践のため、救急疾患の短期入院、ERから直接他院へ転院する仕組み等を実践したが、新型コロナ対応に伴う病棟閉鎖による病床満床や複数の救急患者対応等による救急の受入制限も生じた。感染症については、新型コロナに際して病棟の陰圧化や重症病床の整備等のハード面の感染症対策の強化や、スタッフの研修を行うなどの対策を講じた。これらの取組により、市民に必要とされる医療及び地域医療の中で十分な対応が難しい医療の提供に努めた。

高度医療のうち、がんについては、入院患者数が新型コロナの影響で一時減少したが令和3年度にはコロナ禍以前の状況に戻った。がん診療連携推進病院として診断から緩和ケアまで包括的ながん診療を行うため、手術療法、化学療法を中心とした集学的治療を提供した。さらに高度専門的な治療が必要な患者に対しては、地域の高度専門医療機関と連携して診療を行った。また、がん治療サポートセンターと入退院管理支援センターの連携、がん患者のリハビリテーションによる退院後の支援も充実させた。市民に対しての公開講座、地域の医療従事者向けのweb研修等も実施し、がんに対する啓発・連携を促進した。

脳卒中については、急性期脳梗塞に対する再開通療法の領域で岡山市内の中心的な役割を果たした。令和2年度に岡山県南東部における一次脳卒中センターコア施設としての活動を委嘱され、他施設からの治療依頼を数多く引き受けた。また、早期離床のためのリハビリテーション、患者の早期自立や回復期施設への移行を目指した退院支援も積極的に取り組んだ。新型コロナ以降は脳卒中に係る入院患者数、手術件数は減少したが、感染症対策を講じた上での診療・リハビリテーション体制の整備、新技術の導入等に取り組み、体制強化に努めた。

急性心筋梗塞では、緊急カテーテル検査や治療については、循環器学会が定めたガイドラインに沿い、迅速に緊急冠動脈形成術の治療を行い、質の高い治療を実施した。地域の心臓血管外科の医師と定期的にカンファレンスを行い、外科的治療（冠動脈バイパス手術等）が必要な患者については、迅速に連携し、転送して治療を行った。急性期治療が終了した患者については、合併症の予防と早期退院を進めるため、多職種による包括的心臓リハビリテーションを実施した。また、地域連携パスの活用等、かかりつけ医との連携強化に努め、患者が早期に自立できるシームレスな支援を行った。

糖尿病においては、訪問で培った他の医療機関との信頼関係を維持することで、連携して高度な糖尿病治療を外来と入院で継続して実施した。新型コロナに対する不安で来院できない患者も存在したため、通院中の糖尿病患者に対し、電話再診を継続したり、病院から連絡して予約の取り直しや他院への紹介等を行ったりした。

せのお病院においては、高度専門医療を行っている急性期病院の後方支援の役割を果たすため、平成30年5月に全床を地域包括ケア病床とした。近隣の医療機関や介護施設にリハビリ機能や在宅復帰支援に係る病院機能を伝え、開放病床の設置や高度医療機器の共同利用促進で近隣開業医のバックアップ病院としての役割を果たした。また、市民病院と電子カルテの共用により患者情報を共有し、一体化した医療提供を実現した。市民病院やその他の急性期病院からの新型コロナ回復後の患者の受入れにも努めた。

近隣開業医の意見も聞きながら、在宅患者の急性増悪時のバックアップを行い、せのお病院で対応困難な症例については、適切な救急医療機関を紹介することで初期救急の役割を果たした。医師会や地域が主催する多職種による会議等への参加、地域医療機関等が参加する講演会開催により関係構築に努め、円滑な医療連携に役立てた。大規模災害に備えた業務継続計画（BCP）の策定、備蓄品の充足、南海トラフ地震の発生を想定した医療救護活動の訓練も行った。

医療事故の予防及び再発防止対策については、多職種連携で医療安全に関する会議や委員会を定期的に行い、インシデント、アクシデントに関する情報を速やかに収集及び分析し、再発防止に取り組んだ。

院内感染対策については、院内感染対策委員会の毎月開催や院内感染管理システムを利用し、耐性菌キャリアを含むサーベイランスの強化を継続した。抗菌薬適正使用支援チーム（AST）による抗菌薬使用状況の確認等、耐性菌の発生を最低限に抑制した。また、継続して他施設と相互に訪問評価を実施した。

感染症に罹患した職員の出勤停止期間や自宅療養期間の管理、感染制御チーム（ICT）による週1回の院内ラウンドを継続して行い、血液培養陽性者に対する支援を365日体制で行った。多剤耐性菌等の持込に対するスクリーニングの強化と持込患者をベッドコントロールにより適正に管理し、アウトブレイクを起こすことなく院内感染を減少させた。このことは、近隣病院から感染対策のモデルとして評価され、感染対策の指導も行った。

医療安全研修・院内感染防止研修ともに、コロナ禍においてはeラーニング等を使いながら職員の知識の向上を図った。

個人情報保護については、集合研修の代替手段として、動画研修や院内ポータルサイトでの資料公開を行い職員へ周知を行った。マニュアルの見直しや更新も速やかに行い、常時実態に即した内容にした。なお、令和5年度から適用される改正個人情報保護法を受けて、法人の規程作成等の対応にも着手した。

総合的な診療体制の確立とチーム医療の推進については、従来の新採用者研修に加え、人材開発センター（令和3年度から人材開発室）で中途入職者、育児休業復帰者合同研修を一元管理

し、実施した。業務面では、病棟カンファレンスの充実や、栄養サポートチーム（NST）研修会、救急搬送事例検討会等多職種での研修会を開催し、各科専門領域における救急・総合診療の充実、チーム医療と他部門間の連携を強化した。

新型コロナの蔓延により対面型の研修やカンファレンスが困難となったため、IT技術を活用したリモート型の研修やカンファレンスを導入したが、減少した実施回数の回復には至らなかった。しかし、新型コロナ蔓延時に内容や必要度に応じて実施したことで目標である診療体制に関わる質の低下は防止できており、質的な目標は達成できたと考えられる。

医療の質や患者サービスの向上のために、患者サービスの向上、医療現場の効率化、環境の改善となるよう情報システムの更新、導入を行った。また、電子カルテシステムについては、現行システムの安定稼働に努めながら、次期システムへの更新作業を行った。

クリニカルパスの使用方法等についての勉強会や、作成や改訂の支援を積極的に行い、適正使用に努めた。クリニカルパスの種類数及び使用率は上昇しており、種類数・使用率ともに目標値を達成した。

治験・臨床試験・販売後調査については、順調な増加から新型コロナの影響により一時減少に転じたが、令和3年度は治験や販売後調査については再度増加傾向となった。

患者へのインフォームドコンセントについては、書式の整備や記録の在り方の検討を進め、患者への確実な履行と質の担保に努めた。また、患者の希望により他院セカンドオピニオン外来への相談調整を行った。医療相談は患者相談室、がん相談支援センターを中心に受け付け、相談対応の質向上のために職員が医療メディエーターの研修を受講した。

薬剤管理指導、無菌製剤処理及び外来化学療法の実施は目標を達成し、薬物療法の安全性と質の向上が図られた。また10病棟に薬剤師を配置し病棟薬剤業務を充実させた。年々件数が伸びていた各種栄養指導は新型コロナの影響で目標は未達となったものの、感染対策のうえで多職種チームによる患者の食事療法のサポートを継続した。同様に入院患者食事相談についても年々相談件数を伸ばしていたが、新型コロナの影響で減少した。

患者ニーズの把握と改善については、新型コロナの影響で調査件数が減少したが、入院・外来いずれも徹底した感染防止対策が評価され、満足度が落ち込むことはなく、高い満足度を維持できた。退院支援に際しては、生活課題が大きいケースや介入が困難なケースについては、岡山市地域ケア総合推進センターと相談・連携を行い、また地域の支援関係者との支援会議にも参加し、当院に求められる役割の把握に努めた。

接遇に関する全体研修やワークショップを実施し、意識向上に努めた。新型コロナ拡大時には、集合研修は動画研修等で代替した。

市民や患者への情報発信については、広報誌やホームページ、ラジオ等を利用した広報活動を実施した。各メディアからの取材要請に協力し、市民に新型コロナ感染防止対策の重要性を伝達し、岡山市の広報活動にも貢献した。市民を対象にした各種イベントや市民公開講座、健康相談、患者向け教室も開催し、コロナ禍では一部をwebや資料配布等に置き換えて市民の健

康教育を継続した。

地域医療支援病院として、地域の保健・医療・福祉情報を把握し、地域医療を支援した。また地域の医療機関との関係を深めるため、症例検討会等や勉強会を定期的で開催し地域医療ネットワークの確立にも努めた。新型コロナの影響で、受診・入院患者数について減少が続いたが、紹介率・逆紹介率の目標値は達成した。

地域の医療機関への訪問や集合形式の研修会開催が困難な状況の中、オンライン形式によるカンファレンス、会議、連携研修会の開催や広報誌の発刊等を積極的に行い、関係性の維持・発展に努めた。地域の多種職連携会議への継続的な参加や、医療機関への研修会等の案内により関係性を維持し、退院支援相談等の強化により在宅医療を推進した。

医師不足が深刻な地域の医療機関への人的支援については、新型コロナ拡大の状況を注視しながら実施した。また、地域医療を担う医師の人材育成においては、研修医の受入れ、救急救命士の実習受け入れについて、いずれも100%対応した。連携大学院制度においても大学病院との連携を深め、救急医療現場での人材育成体制を強化した。指導医教育により臨床研修指導医は令和3年度末には52名となり目標を達成した。令和3年度には人材開発室（人材開発センターから事業引継ぎ）を立ち上げ、階層別研修などを行った。

保健医療福祉行政への協力については、地域ケア総合推進センターとの定例会議、協働事業の企画・実施や情報共有等、新型コロナ感染状況を考慮しながら密接な連携がとれた。

市民公開講座は、新型コロナ禍以降は開催ができなかったが、院外報への健康記事掲載やホームページでの情報発信を継続し、疾病予防や検査の重要性等の情報を発信した。加えてソーシャルメディアを用いた健康情報の発信等、市民への広報活動の充実に努めた。

（2）評価理由

市民病院において、新型コロナの影響で救急車応需率と手術件数は目標に未達となったが、救急患者数は令和3年度には回復して目標達成となった。岡山ERの機能として、初期診療後に近隣の第三次救急医療機関に転院搬送する運用も行った。

二類感染症の受入れについては、24時間365日の体制を堅持し、継続して行政と連携して第二種感染症指定病院としての責務を果たした。新型コロナについては、重点医療機関の指定を受け、受入れのための設備工事、検査機器の整備、体制の構築等を行い、行政の受入病床の増床要請にも対応し、県下で最も多くの陽性患者を受け入れる等、市立病院としての業務を十二分に果たした。

災害医療に関しては、新型コロナの影響で各種研修会は中止となったが、事業継続計画（BCP）に基づく訓練や、災害発生時の医療活動に備えた医薬品、水、食料等の備蓄等について維持管理は行った。

小児医療については、一般小児医療やアレルギー診療を通じて周辺医療機関と連携し、地域医療に貢献できた。小児の重症疾患、病的新生児等においては高次医療機関へ紹介・搬送を行い

適切に対応した。周産期医療では、分娩時に複数医師が立ち会える体制とし安全に出産ができるようになった。ハイリスク妊婦対応については高度医療機関と連携し、母体搬送や急性期後の逆紹介等を円滑に行った。マタニティセンターについては、全妊婦を対象に妊婦指導を助産師が行い、医療面・経済面・生活面あらゆる方面の問題点を抽出して対応し、より安全安心な出産・育児に大きく貢献した。

市民のためのセーフティネット機能として、社会的困窮者受入れに常時対応できるように医療ソーシャルワーカーを配置した。「断らない救急」の実践のため、救急疾患の短期入院、ERから直接他院へ転院する仕組み等をつくり実践した。

高度医療において、がん診療ではがん診療連携推進病院として、診断から緩和ケアまで包括的な診療を行い、脳卒中では令和2年度に岡山県南東部における一次脳卒中センターコア施設として、他施設からの治療依頼を数多く引き受けた。急性心筋梗塞、糖尿病においても、高度で専門的な医療の提供を継続的に行うことができた。

せのお病院においては、紹介率、逆紹介率、病棟カンファレンス回数でいずれも目標を達成した。全床を地域包括ケア病床とし、市民病院やその他高度専門医療を行っている急性期病院の後方支援の役割を果たし、近隣の医療機関や介護施設との連携を強化しながら患者の受入れに努めた。また、市民病院と電子カルテを共用することで患者の情報を一元化し、法人として一体化した医療提供ができるようになった。近隣施設での市民公開講座や健康相談等の継続、地域の医療者や在宅支援者向け会議の開催を通じて地域との関係性を強化した。大規模災害に備えた業務継続計画（BCP）の策定、備蓄品の充足、医療救護活動の訓練も行った。

医療安全については、多職種連携で会議・委員会等を定期開催し、インシデント、アクシデントに関する情報を速やかに収集・分析し、医療事故の予防及び再発防止に取り組んだ。院内感染対策については、院内体制を構築し、職員の健康管理や入院・外来患者の管理を徹底し、依頼のあった疑似症例の患者や確定患者を全て受け入れ、院内感染の発生を抑制した。

総合的な診療体制の確立とチーム医療の推進については、人材開発センター（令和3年度から人材開発室）で研修を一元管理して研修体制を強化し、研修の質を高めた。病棟カンファレンス、多職種での研修会、各科専門領域診療の強化、救急・総合診療の充実、チーム医療・他部門間の連携強化により業務面の機能向上にも努めた。新型コロナの影響で対面型の研修やカンファレンスが困難となり、IT技術を活用して開催に努めた。減少した実施回数の回復には至らなかったが、こうした状況下でも内容や必要度に応じて実施したことで目標である診療体制に関わる質の低下は防止できており、質的な目標は十分達成できたと考えられる。

医療の標準化の推進のために、患者サービスの向上、医療現場の効率化、環境の改善となるよう情報システムの更新、導入を行った。また、電子カルテシステムについては、次期システムへの更新作業を行った。クリニカルパスの使用方法等について作成・改訂の支援を行い、適正使用に努めた。パスの種類数及び使用率は上昇しており、ともに目標値を十分達成している。

治験・臨床試験・販売後調査については、新型コロナの影響で件数が減少したものの、受託

能力の向上により、それぞれ再増加に転じている。

患者中心の医療の提供のため、インフォームドコンセントについては、電子カルテシステム内に治療計画、手術同意書等の書式を整備し確実な履行に努めた。またセカンドオピニオンの相談対応、職員の医療メディエーター研修受講等による医療相談窓口の機能強化にも取り組んだ。

多職種連携の取組として、薬剤管理指導、無菌製剤処理及び外来化学療法については、いずれの年度においても目標を達成し、各種栄養指導については、多職種チームで患者の食事療法のサポートを継続した。入院患者食事相談についても年々件数を伸ばしている。

患者ニーズの把握と改善について、調査結果では毎年高い満足度を維持しており、新型コロナの影響下でも、入院・外来いずれも徹底した感染防止対策が評価された。退院支援に際しては、地域包括支援センター等の地域の介護サービス関係者や岡山市地域ケア総合推進センターとの連携等により、切れ目ない診療体制づくりに努めた。来院者からの信頼獲得のため、接遇に関する全体研修やワークショップを実施し、意識向上に努めた。新型コロナ禍では集合研修は動画研修等で代替した。

市民や患者への情報発信については、ホームページや各種媒体を利用した広報活動を実施した。各メディアからの取材要請に協力し、市民に新型コロナ感染防止対策の重要性を伝達するなど、岡山市の広報活動にも貢献した。また、市民を対象にした各種イベントや市民公開講座、患者向け教室等も開催し、コロナ禍では一部をwebでの内容公開や資料配布等で継続し、市民の健康教育に努めた。

地域医療支援病院として地域の医療機関との関係を深めるために訪問や集合研修会開催を実施していたが、コロナ禍ではオンライン形式によるカンファレンス、会議、研修会の開催や広報誌の発刊等を積極的に行った。また地域の多種職連携会議への継続的な参加や、医療機関への研修会等の案内を通じて関係性を維持し、退院支援相談等の強化により在宅医療を推進した。新型コロナの影響下でも、紹介率・逆紹介率の目標値は達成できた。

また、地域医療を担う人材育成については、研修医受入れと救急救命士の実習はいずれも100%受け入れ、スキルアップに貢献した。医師不足が深刻な地域の医療機関への人的支援についても、新型コロナ拡大の状況を注視しながら実施した。

保健医療福祉行政への協力については、岡山市地域ケア総合推進センターとの定例会議、協働事業の企画・実施や情報共有等、新型コロナ感染状況を考慮しながら密接な連携がとれた。

以上の取組等により、令和元年度までは順調に中期計画を実施してきたが、令和2年度からは新型コロナ拡大により計画達成に大きな影響がでた。しかし、新型コロナの影響はあるが、令和3年度には対策を講じるなど、中期目標を概ね達成できたと考える。

(3) 課題と改善方策等

- 「1(1)ア 市民病院 救急医療・岡山ER」、「1(1)エ 市民病院 小児・周産期医療」

(H30 課題) E Rでの小児救急対応については、スタッフの育成等が図られているところであるが、市域全体で体制整備が課題となっている分野でもあり、引き続き体制強化に向けて取り組んでいただきたい。

(改善方策) 小児科医師がE R副センター長を兼任し、スタッフ育成の勉強会等によりE Rでの小児救急体制を強化した。

(R元課題) 市民病院の救急医療については、目標を上回る高水準の救急要請応需率となっている。モバイルE Rの運転手不足等の課題が解消されればさらなる充実が見込まれるため、引き続き人材確保に取り組んでいただきたい。

(実施状況) 令和2年度にモバイルE Rの運転手を新たに増員し研修会を実施した。しかし、新型コロナウイルスの影響でモバイルE Rを一時停止しており、実際の運転訓練ができていない。

○「1(2) せのお病院」

(H30 課題) 災害時に地域の拠点病院としての役割を果たせるよう、マニュアルの整備、定期的な災害訓練を早急に実施していただく必要がある。

(R元課題) 災害時に地域の拠点病院としての役割を果たせるよう、定期的な災害訓練を早急に実施していただく必要がある。

(改善方策) 令和元年度に災害時におけるBCP(事業継続計画)を策定し、令和2年度にはBCPに基づく災害訓練を実施した。

(R2 課題) コロナ禍にあっても公開講座を開催した一方、地域医療機関の参加する講演会は1度も開けていない。web開催の準備は整えたとのことだが、対象となる事業所等の参加を促す開催方法の検討をしていただきたい。

(実施状況) オンライン会議の普及により相手方の環境が整い、講演会を再開することができた。また、参加者の希望を考慮した講演内容とすることで新規参加者を増やすことができた。

○「2(1)ア 医療安全対策」

(H30 課題) 医療安全対策におけるインシデント・アクシデント報告に関する目標値については、客観的に分かりやすい検証が可能となる指標等について再考していただきたい。

(改善方策) 令和元年度において、日本医療安全調査機構が提言する一般的な指標(1ヶ月あたり病床数の2分の1:市民病院では200件/月、2,400件/年)に対する達成率は104.8%となり、指標を達成した。

(R元課題) インシデント・アクシデント報告については、医師からの報告比率が低いことに関し、対策を講じていただきたい。

(実施状況) 令和2年度は医師、研修医からの報告が3.1%と前年度の2.4%を上回ったが、日本医療安全調査機構の指標で全体の8%が目標とされており、引き続き医師

からの報告を促すことが課題である。

医師に対しては医局会等で定期的に報告の必要性を説明し、報告を依頼し、更にコメディカル等からの報告の上がった事案についても医師からの報告も必要と判断したものについては個別に依頼している。また、インシデント報告の提出漏れを防ぐように検討している。

(R2 課題) インシデント・アクシデント報告について、引き続き医師からの報告について改善の検討を進めていただきたい。

(実施状況) 令和3年度は医師、研修医からの報告が5.7%と前年度より比べ1.8倍となっており、これは医療安全管理室が積極的に情報収集を行い、他の職種から寄せられた情報をふまえて、直接各担当医に報告書の入力依頼を継続した結果であると考えられる。

○「2(3)イ クリニカルパス」

(H30 課題) クリニカルパスについては、種類数、使用率が目標値を上回った点は高く評価できるが、今後、パスの効果についても検証し、分析結果を報告していただきたい。

(改善方策) パスの効果については、平成30年度中の入院患者で検証を行ったところ、適正な入院期間で退院した患者の割合は、パス適用者の方が有意に高く、パスを適用することは病床管理に貢献していることが分かった。一方、包括点数と医療資源の出来高点数の差においては、パス適用者と非適用者で有意な差がなかったため、今後は経営的な観点からも効果的な医療を実施できるように、パスの見直しを行うこととした。

○「3(1)ア インフォームドコンセント・セカンドオピニオン」

(H30 課題) インフォームドコンセントの実施ができているかを検証するための方策についても検討していただきたい。

(R元課題) インフォームドコンセントについては、説明した内容が正しく患者に理解されているかといった観点からも実施状況を検証していただきたい。

(改善方策) インフォームドコンセントについては、手術等の重要な説明については、内容が正しく患者に理解され、同意をされた場合には署名をいただき、電子カルテシステムに取り込んでいる。

○「3(1)ウ 患者ニーズの把握等」

(H30 課題) 外来アンケートについては、調査件数を増やすための対応策を講じていただきたい。

(改善方策) 令和元年度においては、調査回数を増やすことで入院、外来共に回答件数を上回った。

(R元課題) 調査方法の多様化等も検討していただきたい。

(改善方策) 入院に対するアンケートにおいて、従来の意見箱への投函に加え、退院時に職員

から直接アンケート用紙を手渡した。

○「3(1)エ 紛争解決」

(R 元 課題) 係争中の案件については、円満な解決に努めていただきたい。

(改善方策) 係争中の案件については、円満な解決に努めた。

○「4(2)ア 在宅医療の推進」

(H30 課題) 在宅での生活を希望する患者やその家族の意向を尊重し、退院時の在宅移行支援についての取組を強化していただきたい。

(改善方策) 令和元年度においては、患者や家族が安心して療養できる環境を整えるため、多職種会議・退院前カンファレンスの開催に取組を強化し、在宅復帰率は目標値を上回った。

(R 元 課題) MRI の共同利用について、地域の医療機関でのさらなる活用を推進していただきたい。

(改善方策) カルナコネクト(インターネットにより紹介患者のオンライン予約や予約状況の照会を行える患者受診予約システム)の普及活動を行った。

○「6(1) 保健医療福祉行政への協力」

(R 元 課題) カンファレンスや研修会等の実施について、必要な会議を開催できるよう遠隔会議等の対策を検討していただきたい。

(改善方策) 情報通信技術(ICT)を用いたオンライン形式によるカンファレンス、会議、連携研修会の開催を行った。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

法人自己評価	5 中期目標を大幅に上回る特筆すべき状況にある
	4 中期目標を達成した
	3 中期目標を概ね達成した
	2 中期目標を十分に達成できていない
	1 中期目標を大幅に下回っている

内容及び判断にあたって考慮した事由

(1) 業務実績

理事長を中心とした法人の運営に関する意思決定のため、各病院幹部が集まり法人全体の経営戦略等を協議・検討する経営戦略会議や、経営に係るデータ分析・検証等を行う経営推進室を新設した。また、人事課と財務課を市民病院から法人本部へ移管して人材と資金を法人として一元管理できる体制とした。これらの本部機能強化により、法人全体の課題に組織的に対応できる体制となった。また院内ポータルサイトで、病院経営ならびに運営に関する方向性を全職員に共有・周知した。

市民病院では、入退院管理支援センターを設立し、センター内に医事部門と地域連携部門において、患者に対するデータや対応を一元化し、医療情勢の変化や患者ニーズの変化に横断的かつ効率的に対応した。診療や入院・退院に関する業務の効率化で、患者・連携医療機関の利便性を向上した。新型コロナに対しては、感染収束後の病院運営を見据え、急性期医療に対応できる病棟再編・病床管理と重症対応看護師の育成をしながら通常診療との両立に努めた。

せのお病院では、平成30年5月に全病床（60床）を地域包括ケア病床に変更し、市民病院をはじめとする急性期病院からの患者受入れを強化しながら、訪問診療の開始や介護福祉士の増員、訪問リハビリテーションの開始準備を実施した。在宅や施設への復帰支援と在宅患者の軽度急性期疾患の受入れに努めた。

急性期病院である市民病院、地域医療の実践病院であるせのお病院のそれぞれで機能を明確化し、急性期から回復期までの医療が担えるよう法人全体で一体的な運営を実施した。

初期研修医や看護師については安定した採用ができた。事務職員については、特に重要な医事職員を中心に民間経験者の採用試験や非正規の正規登用試験を実施した。また、育児支援制度の活用については女性職員の取得率100%を維持し、男性職員にも育児休業が活用された。

病院機能評価には市民病院・せのお病院ともに大きな指摘もなく合格し、次回受審に向けて、マニュアルの見直しや業務改善を進めた。監事による業務監査で確認を受けて改善に努め、理事会での助言や必要に応じた顧問弁護士への相談等により、内部統制の強化と維持を図った。

会計面でも、監事や会計監査人による会計監査及び相談・助言等を受けた。令和元年度をも

って会計監査人による法定監査を受ける義務は終了したが、その後も監査法人による会計監査と相談、助言を受けることで、適切な会計処理と経営強化に努めた。

臨床研修指導医数は安定して目標を上回り、看護師特定行為研修は令和3年度に修了者が3名となり、認定看護師は奨学金制度の新設等により着実に増加した。また、内科専門研修プログラムでの専攻医も安定して確保し、内科専門研修プログラム基幹病院としての役割を十分に果たした。

人事評価においては、医療組織に即した新人事評価制度の浸透を図るため、職務行動を評価する能力評価に特化して行った。その結果、職員の理解も深まり新人事評価制度への移行がスムーズにできた。運用方法についてはマニュアル・様式の改定等も行っている。

職場環境の整備において、医師の勤務時間短縮や宿日直体制の整備、働き方改革に向けた体制整備を行った。安全衛生管理室を設立し、職員の安全衛生やハラスメント対策を強化した。看護師の夜勤の平準化についても協力体制を強化した。

院内保育園の児童数は、家庭で保育する産休・育休職員の増加や認可保育園への転園等により、令和元年度からは減少傾向となる一方、一時保育の利用は増加しており、職員が業務に専念できるよう、委託業者と協力して柔軟な利用を可能とし、育児と仕事の両立に関する要望に応えた。

(2) 評価理由

法人全体の課題に組織的に対応できる体制を整備し、業務の拡充や部署間の連携強化により、業務の効率化とコミュニケーションの円滑化を図ることができ、効果的かつ統一感のある法人運営を行うことができた。

人材確保については、「医師をはじめとした優秀な人材の確保」、「臨床研修指導医の育成」、は安定して目標を上回っているほか、看護特定行為研修修了者や認定看護師についても着実に増加しており、順調であると言える。また、内科専門研修プログラム基幹病院としての役割も十分に果たすことができた。

人事評価においては、病院組織に即した人事評価制度の浸透を図るため、職務行動を評価する能力評価に特化して行ったことで職員の理解も深まり新人事評価制度への移行がスムーズにできた。

職場環境の整備においては、安全衛生管理室を設置し、職員の安全衛生やハラスメント対策を強化した。看護師の夜勤の平準化についても職員に協力を求め協力体制を強化するなど、計画を順調に実施した。

以上の取組や成果により、新型コロナウイルスの影響はあったが、中期目標を概ね達成できたと考える。

(3) 課題と改善方策等

○「1(1) 業務運営体制の構築」

(H30 課題) ワーキングチームの取組については、その成果についても報告書に記載していただきたい。

(改善方策) 報告書に記載するようにした。

○「2(2) 適正な人事評価制度」

(H30 課題) 人事評価制度については、職員への浸透を図った上で定着させていただきたい。

(実施状況) 人事評価制度についての研修を新規採用職員や新たに評価者になった職員を中心に実施した。その結果、人事評価はほぼ100%実施できた。

(R元課題) 人事評価制度については、業績評価の導入も進めていただきたい。

(実施状況) 新しい人事評価制度の浸透を図り、人事評価制度の効果的な活用方法を業績評価等の実施も含め検討する。

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

法人自己評価	5 中期目標を大幅に上回る特筆すべき状況にある
	4 中期目標を達成した
	3 中期目標を概ね達成した
	2 中期目標を十分に達成できていない
	1 中期目標を大幅に下回っている。

内容及び判断にあたって考慮した事由

(1) 業務実績

中期目標期間前半は順調に経営改善を行ったが、後半は新型コロナの影響が大きく、計画通りの患者数、医業収益を確保できなかった。しかし新型コロナ関連の補助金の交付により黒字を計上したことから、中期目標期間を通じて経常収支比率は目標を達成することができた。

病床稼働率は、中期目標期間前半は順調に進んだが、新型コロナの影響で後半は計画どおりに進まなかった。特に市民病院では中期目標期間後半は新型コロナの重点医療機関として積極的に新型コロナ患者を受け入れたことによる病床制限のため病床稼働率が低下した。外来収益については単価が上昇し、新型コロナ前の水準以上の収益をあげた。

給与費比率については、新型コロナの影響で医業収益の低下、手当や人員増による費用の増加のため達成できなかった。材料費については高額薬剤の購入増加、新型コロナや原油高等の社会情勢の変化により材料価格が高騰し、材料費比率が悪化したため、医業収支比率の低下の要因となった。

(2) 評価理由

中期目標期間前半は、増収対策により順調に経営改善を実施できたが、後半は新型コロナの影響で計画どおりの患者数、医業収益は確保できなかった。しかし、新型コロナ対応で設備や医療機器、体制を整備して重点医療機関の役割を果たし、補助金交付により黒字を計上できたことで、経常収支比率は目標を達成できた。

期間後半は、医業収益低下や高額薬剤の購入増加及び材料価格高騰による材料費比率の悪化、新型コロナ関連の人件費増加による給与費比率の悪化で目標達成に至らなかった。その中で、外来単価の上昇、ベッドコントロールによる平均在院日数の短縮等による入院単価の上昇や未収金への対応徹底により、収益はコロナ禍の中でも改善傾向となった。

医療を取り巻く環境が大きく変化する中、設備改修、医療機器の投入や人材教育に力を入れ、新型コロナ対応と通常診療の両立をさせたように、環境の変化に対応しながら収入確保に向けた体制づくりを進めた。

以上の取組や成果により、新型コロナの影響はあったが、中期目標を概ね達成できたと考える。

(3) 課題と改善方策等

○「1 持続可能な経営基盤の確立」

(H30 課題) 指標である市立総合医療センターの経常収支比率は目標値を上回ったものの、臨時損失が発生したことにより当年度の赤字幅は前年度より拡大している。第2期中期計画期間中の黒字化を達成するためには、さらに経営の効率化を進めていく必要がある。

(改善方策) 収益を増やすことで人件費率等を下げ、単年度黒字を目指したが新型コロナ等の影響があり、市民病院単体では黒字を達成できなかった。しかし、せのお病院を含めた法人全体では単年度黒字となり、経常収支比率の年度目標を達成した。

(R 元 課題) 法人設立後初めて単年度黒字を達成したところであるが、自己資本比率は依然低い水準にあり、引き続き経営基盤の確立に取り組んでいただきたい。

(改善方策) ベッドコントロールの強化により病床を効率的に運用し、平均在院日数を短縮したことで、入院単価の上昇につなげることができた。新型コロナ収束後は平均在院日数を短縮し、新規患者の増加を目指す。

○「2 収入の確保及び費用の節減」

(H30 課題) せのお病院については、医師の退職による影響等もあり、目標値を大きく下回る結果となった。給与費比率については、市民病院では、人員増により診療体制を強化させることで増収を図っているところであるが、前年度と同率となっている。また、せのお病院では、これまでも極めて高い水準であったが、前述の理由によりさらに比率が上昇している。法人全体で最適な人員配置による給与費比率の改善を図っていく必要がある。

(改善方策) 増収に向けて、近隣の病院・診療所を医師も同行して職員が訪問すること等により、市民病院の外来収益は11.4%増となった。費用についても市民病院とせのお病院で同種の契約を一本化するなど、契約内容・契約方法の見直しを行い、経費を節減した。せのお病院においては、より有利な病棟入院料の算定が可能になったことや、病床稼働率の向上により医業収益は約8.8%増加した。費用についても、給与費や経費の削減により全体を減少させた。その結果、経常収支比率、医業収支比率及び給与費比率のいずれも目標値を達成し、経常利益も大幅に増加した。

第4 その他業務運営に関する目標を達成するためとるべき措置

法人自己評価	5 中期目標を大幅に上回る特筆すべき状況にある
	4 中期目標を達成した
	3 中期目標を概ね達成した
	2 中期目標を十分に達成できていない
	1 中期目標を大幅に下回っている

内容及び判断にあたって考慮した事由

(1) 業務実績

市民の健康増進を目的に、隣接する健康・医療・福祉系施設において岡山市地域ケア総合推進センターと「まちかど心不全教室」を共同開催した。新型コロナで大人数の集合型イベントの開催は当面見送っているが、web配信を活用した開催等も検討し、定例会議を重ねる中で、さまざまな市民向け講座や医療従事者向け研修会等が協働で企画・運営できる連携体制が構築できた。

(2) 評価理由

新型コロナの影響により、検討していた市民への健康講座等の開催が困難となったが、岡山市と協議し、開催方法等について再度検討することで、市が推進する医療福祉を核としたまちづくりへ貢献できるように努めた。

以上の取組や成果により、中期目標を概ね達成できたと考える。

(3) 課題と改善方策等

○「1 健康・医療・福祉を核としたまちづくりへの貢献」

(H30 課題) 市民の健康増進等に寄与する具体的な活動については、次年度以降期待する。

(実施状況) 医療モール棟の一区画を活用するため借り受けた。借り受けた区画については、市民への健康講座の開催等、広く市民の健康増進に寄与できる場として具体的な活用方法を検討していたが、新型コロナの影響により今後の検討課題となった。

(R元課題) 引き続き、市民の健康増進に寄与する取組について検討を進めていただきたい。

(実施状況) 新型コロナ拡大により市民健康講座等の開催はできていないが、岡山市と協議し、開催に向けwebを活用したリモート開催等を実現するための通信・放送設備等を整備した。

4. 小項目別の取組実績

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 市立市民病院として特に担うべき医療

(1) 市民病院

中期目標	救急医療など市民に必要とされる医療、がん、脳卒中、急性心筋梗塞といった高度で専門性の高い医療を安定的に提供するとともに、糖尿病関連疾患をはじめとした予防医療にも力を入れ、他の医療機関等との役割分担や連携を図ることにより、市民の生命と健康を守ること。
------	--

中期計画	救急医療など市民に必要とされる医療、がん、脳卒中、急性心筋梗塞といった高度で専門性の高い医療を安定的に提供するとともに、糖尿病関連疾患をはじめとした予防医療にも力を入れ、地域の医療機関等と役割分担や連携を促進し、市民の生命と健康を守る。
------	--

目標指標の推移

【市民病院】

項目	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	第2期中期計画目標	平成28年度実績
救急患者数	29,966人	28,263人	21,640人	26,910人	26,000人	25,363人
救急要請応需率 (救急車搬送受入率)	94.7%	91.8%	85.8%	80.0%	90.0%	96.8%
手術件数	4,635件	4,716件	4,131件	4,243件	4,500件	4,414件

《関連指標》

項目	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	平成28年度実績
救急車搬送受入件数	4,778件	4,817件	4,069件	4,067件	4,159件
救急からの入院患者の割合※	18.9%	20.4%	24.6%	23.4%	24.1%

※救急からの入院患者の割合＝救急からの入院患者数／救急患者数（救急車含む）×100

年度評価 結果推移	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	—	—	—	

実績	
----	--

中期目標	<p>ア 市民病院は、24時間365日すべての症状の患者を受け入れる岡山ERの円滑な実施により、市民が安心できる救急医療を提供するとともに、岡山ERでの救急初期診療後は他の医療機関に引き継ぐコーディネート（転送・転院・紹介）を積極的に行うこと。また、救急医療機関のひとつとして、地域における救急医療の一翼を担うとともに、各医療機関の役割分担と連携を促進し、地域医療ネットワーク全体で救急医療を支える体制づくりに貢献すること。</p>
-------------	--

中期計画	<p>ア 市民病院は、岡山ERとして24時間365日救急対応する体制を確立し、軽症の自力受診（walk in）患者から重症の救急搬送患者、さらには他の医療機関で受入困難とされた患者まで、すべての症状の救急患者の受け入れを目指す。</p> <p>受け入れた救急患者は救急初期診療の後、院内の専門治療部門に引き継ぐとともに、患者の症状に応じてコーディネート（転送・転院・紹介）機能を発揮することで、3次救急医療機関の岡山大学病院をはじめとする地域の医療機関との密な連携を促進する。そのために、救急専門医、トリアージナース等救急医療を担う必要な人材を確保し、さらに、岡山大学等との連携のもとでこれらの人材を育成し、地域へ輩出する役割を果たす。</p>
-------------	--

目標指標の推移						
【市民病院】（※再掲）						
項目	平成 30年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2年度 実績	令和 3年度 実績	第2期 中期計画 目標	平成 28年度 実績
救急患者数	29,966人	28,263人	21,640人	26,910人	26,000人	25,363人
救急要請応需率 (救急車搬送受入率)	94.7%	91.8%	85.8%	80.0%	90.0%	96.8%
《関連指標》（※再掲）						
項目	平成 30年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2年度 実績	令和 3年度 実績	平成 28年度 実績	
救急車搬送受入件数	4,778件	4,817件	4,069件	4,067件	4,159件	
救急からの入院患者の割合※	18.9%	20.4%	24.6%	23.4%	24.1%	
※救急からの入院患者の割合＝救急からの入院患者数／救急患者数（救急車含む）×100						

年度評価 結果推移	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
	A	S	S	

実績	<p>ア 当初の岡山ERの運営方針であった地域の救急のコーディネート機能の発展について検討した。重症救急（三次適応救急）に関しては、当院の集中治療部へ引き継ぐための初期診療を行った。また、岡山大学病院、岡山赤十字病院等の近隣の第三次救急医療機関とも連携を図り、当院で診断・初期治療後に転院搬送する運用も行った。</p> <p>コロナ禍前の平成30年度と令和元年度は目標値を達成したが、コロナ禍の令和2年度以降では目標値が未達となった。ただし、新型コロナに対し令和2年度では試行錯誤を繰り返して種々の対応策を講じ、令和3年度にはwalk in患者への医療供給体制を確保した。</p> <p>コロナ禍において、救急患者・救急車を受け入れるためには、重症新型コロナ患者と一般重症救急患者への対応体制の充実が必要であり、集中治療部及び救急病床の体制強化を目指した。新設の「断らない救急ワーキングチーム」で課題解決を図った。また、重症患者対応看護師を育成し、集中治療専門医による集中治療患者管理の開始などを実施した。さらに、一般重症患者も重症の新型コロナ患者も同時に受け入れるために集中治療部の個室化工事を実施、併せて重症患者に占める新型コロナ患者の状況から救急受入れに必要な病床数の算出も行い、今後に備えた。</p>
----	--

中期目標	イ 第二種感染症指定医療機関として、引き続き現在の役割を果たすこと。また、新型コロナウイルス等の感染症発生時には、感染症指定医療機関として先導的かつ中核的な役割を果たすこと。
------	---

中期計画	イ 感染症医療について、第二種感染症指定医療機関として、感染症患者を常時受け入れられる体制を堅持し、特に二類感染症、新型コロナウイルス等の感染症発生時には、地域で先導的かつ中核的な役割を担う。
------	--

年度評価 結果推移	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">平成 30 年度</td> <td style="text-align: center;">令和元年度</td> <td style="text-align: center;">令和 2 年度</td> <td style="text-align: center;">令和 3 年度</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">S</td> <td style="text-align: center;">S</td> <td></td> </tr> </table>	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	A	S	S	
平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度						
A	S	S							

実績	<p>イ 中期目標期間の開始時より、二類感染症の受入体制については、結核排菌患者の受入れを含めて24時間365日堅持できており、県南東部医療圏を守る機能は十分果たし、岡山県からの依頼による感染症移送ネットワークに係る感染症対策にも対応した。また、備前保健所健康危機管理対策地域連絡会議や岡山市感染症診査協議会、大都市感染症指定医療機関病院長・事務長会議等に継続して参加し、第二種感染症指定病院として責務を果たした。</p> <p>新型コロナウイルスについては、令和2年1月中旬から中国武漢市における新型コロナウイルスの流行の拡大を覚知したので、院内では個人防護服の着用や院内対応の手順の確認を行った。令和2年2月1日以降は、岡山市保健所及び岡山県との連絡を緊密に行い、厚生労働省からの通知に迅速に対応して院内体制を構築し、県内発生に対応した。マスク対応を徹底し、市民への啓発を行い、疑似症例・陽性確定例の患者の受入れを行政の要請に従い受け入れた。また、新型コロナウイルスの重点医療機関の指定を受け、受入れのための設備工事、検査機器の整備、体制の構築等を行い、行政の要請に対応し受入病床の増床と県下トップクラスの陽性患者を受け入れた。またワクチン事業や検査・診断体制を構築し中期目標の期間を通じて体制を堅持した。</p>
----	---

中期目標	ウ 地域災害拠点病院として、災害その他緊急時に迅速かつ適切な医療提供のできる拠点機能を確保するとともに、大規模災害に備え、傷病者の受入れや災害派遣などの医療救護が実施できる体制を構築すること。
------	--

中期計画	<p>ウ 災害医療について、災害医療研修、災害医療救護訓練を積極的に実施する。また、地域災害拠点病院として災害発生時に迅速な派遣・受入対応ができる体制を整備するとともに、災害発生時の適切な医療活動に備えた医薬品、水、食料などの備蓄や諸設備の維持管理を行う。</p> <p>これまで同様に他の自治体等において大規模災害が発生した場合は関係機関や被災した医療機関等との連携を図るなどの確に医療救護活動の支援に努める。また、災害派遣医療チーム（DMAT）や医療救護班の体制も維持する。</p>
------	---

年度評価 結果推移	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">平成 30 年度</td> <td style="text-align: center;">令和元年度</td> <td style="text-align: center;">令和 2 年度</td> <td style="text-align: center;">令和 3 年度</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td></td> </tr> </table>	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	A	B	B	
平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度						
A	B	B							

実績	<p>ウ 中期目標期間前半では、災害派遣医療チーム（DMAT）については、被災地へのチーム派遣を実施するとともに、隊員の継続的な訓練、新規DMAT隊員の養成を行った。また、職員のスキルアップを図るため、多数傷病者への医療対応標準化トレーニングコース（MCLS）などの災害医療研修にも積極的に参加し、災害医療救護訓練や災害対応訓練エマルゴを用いた訓練も行った。</p> <p>しかし、中期目標期間後半では、新型コロナ拡大に伴いDMAT隊員の養成、災害医療研修等が中止となり、当院で開催予定だった岡山県災害拠点病院医療救護要員研修会も延期となった。そのような状況にあっても、市民病院における事業継続計画（BCP）に基づいた訓練、災害発生時の医療活動に備えた医薬品、水、食料等の備蓄などの維持管理は継続した。</p> <p>また、新型コロナ禍という非常時に迅速かつ適切な医療提供のできる拠点機能を確保し、新型コロナの重点医療機関指定を受け、重症患者の受入れ、発熱外来の設置を行って患者に対応し、その役割を果たした。</p>
----	--

中期目標	エ 小児・周産期に係る地域の医療提供の状況を踏まえ、地域医療機関との連携及び役割分担を行うことにより、安心して子どもを産み育てられる小児・周産期医療を提供すること。
------	--

中期計画	<p>エ 小児医療においては、一般の小児医療を担う役割を果たすため、周産期医療においては、周産期医療を取り巻く状況や医療提供の変化を踏まえ、自治体病院の産婦人科としての役割を果たすため、小児・周産期医療に必要な医療従事者を確保、維持する。</p> <p>また、小児医療について、小児の重症疾患やハイリスク出産等は高度・専門医療機関に搬送するなど地域医療機関と連携し、安心して子どもを産み育てられる医療を提供する。周産期医療については、助産師外来や産後ケアの充実を図り、分娩時以外の妊婦（母体）の健康管理を担うとともに、マタニティセンターにより妊娠から出産までの一連の対応についてトータルコーディネートしていく。</p>
------	---

年度評価 結果推移	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">平成 30 年度</td> <td style="text-align: center;">令和元年度</td> <td style="text-align: center;">令和 2 年度</td> <td style="text-align: center;">令和 3 年度</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td></td> </tr> </table>	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	B	B	B	
平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度						
B	B	B							

実績	<p>エ 小児医療については、小児科常勤医師 3 名の体制を維持し、一般小児医療とともに主としてアレルギー診療を通じて周辺医療機関との連携を深め、地域医療に貢献することができた。さらに小児の重症疾患、病的新生児等においては高度医療機関である岡山医療センター、岡山赤十字病院、岡山大学病院などへ紹介・搬送を行っており適切な連携と対応ができた。</p> <p>周産期医療については、産科医師を平成 30 年度に増員したことで、分娩時に複数医師が立ち会える機会を増やせ、より安全に出産ができるようにした。また、帝王切開と異常分娩が予想される時にはほぼ小児科医の立ち合いができ、ハイリスク妊婦の対応については高度医療機関との連携を強化し、母体搬送や急性期後の逆紹介等をスムーズに行った。</p> <p>マタニティセンターでは、医師による妊婦健診後に助産師が行う妊婦指導は全妊婦を対象とし、医療面・経済面・生活面あらゆる方面の問題点を抽出して対応することで、より安全安心な出産・育児に貢献した。また、産後ケア入院は正常分娩後の肉体疲労や育児不安等を解消する目的で開始し、患者の産後の不安を解消することができた。</p> <p>新型コロナの影響で全国的に分娩数は減少傾向に有り、当院も同様の傾向にあった。また、学会・研究会等への出席・発表の機会が減ったが、webを利用することで必要な情報収集や資格取得もかなりスムーズにできるようになった。</p> <p>貧困、シングルマザー、精神疾患合併等の社会的ハイリスク妊娠が繰り返されているため、問題点を抽出し、学会に発表した。</p>
----	---

中期目標	<p>オ 市民のためのセーフティネット機能を果たすため、必要な診療基盤を備え、地域医療の中で十分な対応が難しい医療を提供すること。</p>								
中期計画	<p>オ 市民のためのセーフティネット機能を果たすため、患者が抱えるさまざまな状況に配慮した診療体制をより一層充実させる。</p> <p>また、これまで以上に結核、感染症、確実に対応する救急等市民に必要とされる医療及び市内の医療提供体制の中で十分な対応が難しい医療の提供に努める。</p>								
年度評価 結果推移	<table border="1" data-bbox="461 607 1374 714"> <tr> <td data-bbox="464 607 691 658">平成 30 年度</td> <td data-bbox="695 607 922 658">令和元年度</td> <td data-bbox="927 607 1153 658">令和 2 年度</td> <td data-bbox="1158 607 1374 658">令和 3 年度</td> </tr> <tr> <td data-bbox="464 665 691 714">B</td> <td data-bbox="695 665 922 714">A</td> <td data-bbox="927 665 1153 714">A</td> <td data-bbox="1158 665 1374 714"></td> </tr> </table>	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	B	A	A	
平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度						
B	A	A							
実績	<p>オ 社会的困窮者の受入れに常時対応できるよう医療ソーシャルワーカーを配置し、セーフティネット機能を果たした。それ以外のセーフティネット機能としては、救急や感染症について常時対応できる救急医の確保を行った。</p> <p>救急医療については、「断らない救急」を目指しており、新型コロナ対応のための病棟閉鎖に伴う病床不足や複数救急患者への対応などで救急応需に制限が生じるときもあったが、救急疾患の短期入院やERから直接他院へ転院する仕組みなどを実践し対応に努めた。</p> <p>感染症医療については、新型コロナ対応のため、重症病床の整備、陰圧病床の拡充など設備の整備やスタッフの研修を行った。</p> <p>これらの取組により、市民に必要とされる医療及び地域医療の中で十分な対応が難しい医療の提供に努めた。</p>								

中期目標	<p>カ がん診療連携推進病院として、引き続き質の高いがん診療機能を提供するとともに、市民の健康を守る上で重要な脳卒中、急性心筋梗塞等の治療に取り組み、高度で専門性の高い医療及び糖尿病疾患等の予防医療についても安定的に提供すること。</p>
------	--

中期計画	<p>カ 高度専門医療</p> <p>[がん]</p> <p>がん診療連携推進病院として、科学的な知見に基づき、手術、化学療法及び放射線治療法を効果的に組み合わせた集学的医療を提供し、地域のがん診療の連携協力体制の強化に努める。また、がん診療の質的向上に努めるとともに、地域の医療機関と連携、役割分担のもと、がん患者の生活に根差した情報提供等を行う。加えて、がん治療サポートセンターとPFMセンターとの連携によるがん患者に対する入院から退院までの相談支援も充実させていき、治療後の在宅復帰後については、がんリハビリテーションにより支援していく。さらに、市が実施するがん対策等に関する施策に協力し、がん予防に寄与する。</p> <p>[脳卒中]</p> <p>脳卒中に対しては、脳神経外科、神経内科、リハビリテーション科を中心として多職種が協働する脳疾患センターとして対応し、それぞれの専門性をいかした高度な医療を提供する。岡山ERと連携してより多くの重症患者を積極的に受け入れ、早期の急性期リハビリテーションを実施し、治療後は地域の医療機関と連携して、患者が早期に自立できるよう支援する。</p> <p>[急性心筋梗塞]</p> <p>常時、救急患者の一次診療を確実に実施できる体制強化を図る。外科的治療や高度専門医療が必要な患者に対しては、地域の高度医療機関と連携した診療を、それ以外の患者には医師、看護師及びコメディカル等で組んだチームによる早期の急性期リハビリテーションを、治療後は地域の回復期リハビリ施設と連携した患者の早期自立支援を、これまで以上に円滑に実施していくように努める。</p> <p>[糖尿病]</p> <p>診断等の初期診療から合併症を伴う急性増悪時における治療まで対応できる専門診療体制をより一層充実させる。安定治療期間においては、地域の医療機関とこれまで以上に緊密に連携して、患者の健康を管理する。</p>
------	---

年度評価 結果推移	<table border="1"> <thead> <tr> <th>平成 30 年度</th> <th>令和元年度</th> <th>令和 2 年度</th> <th>令和 3 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">A</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	A	A	A	
平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度						
A	A	A							

実績

〔がん〕

令和2年度以降、新型コロナの影響による病床数の削減等があったものの、入院患者数は令和3年度にはコロナ禍以前の状況に戻っている。必要な手術療法や化学療法では新型コロナの感染予防などを徹底し、安全な治療を行うことができた。中期目標期間中は、手術療法、化学療法を中心とした集学的治療を提供し、さらに高度専門的な治療が必要な患者に対しては、地域の高度専門医療機関と連携して診療を行った。

令和3年度にはwebによる研修を充実させ、「総合がんセンターボード」、「妊孕性温存環境整備研修」を開催し、院内だけでなく院外のがん診療推進医療機関からも参加があり、地域の医療従事者との多職種連携も図ることができた。

がん診療連携推進病院として、診断から緩和ケアまで包括的ながん診療を行った。また、がん治療サポートセンターと入退院管理支援センターとの連携、がんリハビリテーションによる退院後の支援も充実させた。

〔脳卒中〕

急性期脳梗塞に対する再開通療法の領域で、岡山市内での中心的な役割を果たした。他病院との脳卒中診療連携のため、医療者間コミュニケーションアプリも導入し、県内3病院と脳卒中診療連携協定も締結して協力体制も築いた。令和2年度には岡山県南東部における一次脳卒中センターコア施設としての活動を委嘱され、他施設からの治療依頼を数多く引き受けてきた。また、早期離床のためのリハビリテーション、患者の早期自立や回復期施設への移行を目指した退院支援も積極的に取り組んだ。

なお令和2年度以降の新型コロナの影響で病床数削減や頻繁な救急受入停止で、脳卒中診療に多大な制約を受け、脳卒中に係る入院患者数、手術件数は減少したが、シミュレーションを通じた新型コロナ患者への治療体制整備、感染症対策を講じた上での診療・リハビリ、新技術の導入等の取組を行い、岡山県南東部医療圏の脳卒中診療で中心的役割を果たす体制を強化した。

〔急性心筋梗塞〕

緊急カテーテル検査・治療については、全てに遅滞なく対応し、質の高い治療を実施した。日本循環器学会が定めたガイドラインに沿い、ほぼ来院から90分以内に緊急冠動脈形成術の治療ができた。

外科的治療（冠動脈バイパス手術等）が必要な患者については、地域の心臓血管外科病院と迅速に連携し、転送して治療を行った。

急性期治療が終了した患者については、合併症の予防と早期退院を進めるため、多職種による包括的心臓リハビリテーションを実施した。また、地域連携パスの活用等地域のかかりつけ医との連携強化に努め、患者が早期に自立できるシームレスな支援を行った。

〔糖尿病〕

地域の病院・診療所訪問で培った他の医療機関との信頼関係を維持することで、連携して高度な糖尿病治療を外来と入院で継続して実施した。

また、臨床心理士を含む多職種ของทีม医療で不安を抱える患者への心理的支援を行った。

新型コロナの重症化予防のため、重症化因子である高血糖と肥満について、血糖及び体重のコントロールが極めて重要となった。多くの患者が新型コロナに対する不安を抱え、来院できない患者も存在したため、通院中の糖尿病患者に対し、電話再診を継続して行ったり、病院から連絡して予約の取り直しや他院への紹介等を行った。

【市民病院】

項目		平成 30年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2年度 実績	令和 3年度 実績	平成 28年度 実績
入院患者数	がん	1,608人	1,592人	1,481人	1,585人	1,453人
	脳卒中	514人	528人	507人	431人	459人
	急性心筋梗塞	70人	47人	62人	59人	51人
	糖尿病	146人	150人	103人	60人	172人

【糖尿病の外来患者数】

項目		平成 30年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2年度 実績	令和 3年度 実績	平成 28年度 実績
外来患者数	延患者数	34,565人	36,485人	28,861人	38,765人	37,184人
	実患者数	4,258人	4,304人	3,829人	5,409人	3,413人

※糖尿病で外来受診した患者数ではなく、外来受診した患者数のうち、糖尿病の病名が登録してあった患者数。

【インスリンポンプ（C S I I）とパーソナル持続血糖測定器付きインスリンポンプ（S A P）使用者数】

項目	平成 30年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2年度 実績	令和 3年度 実績	平成 28年度 実績
C S I I	6人	6人	6人	5人	8人
S A P	6人	8人	7人	7人	5人

(2) せのお病院

中期目標

市民病院をはじめとした高度専門医療を担っている病院や周辺地域の保健医療福祉関係機関と密接に連携することにより、周辺地域の中心的な役割を担う病院として医療サービスを提供するとともに、地域包括ケアの充実に貢献すること。

中期計画

市民病院をはじめとした高度専門医療を担っている病院や周辺地域の保健医療福祉関係機関と連携し、地域住民の生命と健康を守るために地域全体で円滑に対応できる医療環境の充実に貢献する。

目標指標の推移

年度評価 結果推移

平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
—	—	—	

実績

中期目標	ア 周辺地域の中心的な役割を担う病院として地域住民に必要とされる医療を提供する役割を果たすこと。
------	--

中期計画	ア 地域住民が、住み慣れた地域で安心して暮らせる医療環境を確保するために、地域の医療機関と連携しながら、適切な医療を提供する。
------	---

目標指標の推移

【せのお病院】

項目	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	第2期中期計画目標	平成28年度実績
紹介率 ※1	49.6%	55.7%	78.9%	68.6%	40.0%	53.9%
逆紹介率 ※2	60.7%	58.8%	95.8%	98.5%	57.0%	55.3%
病棟カンファレンス	717回	744回	1,088回	1,009回	380回	250回

※1 紹介率 = (紹介患者数 / 初診患者数) × 100

※2 逆紹介率 = (逆紹介患者数 / 初診患者数) × 100

※紹介率については、市民病院からの紹介患者の増加を見込んだ目標値としている。(同一法人内の紹介患者は対象に含まれない。)

年度評価 結果推移	<table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">A</td> <td></td> </tr> </table>	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	B	B	A	
平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度						
B	B	A							

実績	<p>ア 近隣の医療機関や介護施設を訪問し、平成30年5月に全床を地域包括ケア病床に変更したことや、リハビリ機能や在宅復帰支援としての病院機能を説明した。さらに、開放病床の設置や高度医療機器の共同利用を行うことで近隣開業医のバックアップ病院としての役割を果たし、地域の医療機関との連携に努めた。</p> <p>また、患者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう病棟カンファレンスについては、令和2年度から対象者を全ての退院患者に拡大して充実を図った。</p> <p>【病床稼働率：せのお病院】</p> <table border="1" style="margin: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="2">項目</th> <th>平成30年度実績</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和2年度実績</th> <th>令和3年度実績</th> <th>平成28年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">病床稼働率 ※1</td> <td style="text-align: center;">一般病床 ※2</td> <td style="text-align: center;">35.0%</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">67.3%</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">地域包括ケア病床</td> <td style="text-align: center;">83.0%</td> <td style="text-align: center;">88.5%</td> <td style="text-align: center;">86.6%</td> <td style="text-align: center;">86.9%</td> <td style="text-align: center;">72.9%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 病床稼働率 = (在院患者延べ数 + 退院患者数) × 100 / (届出病床数 × 日数)</p> <p style="margin-left: 20px;">在院患者延べ数とは、24時現在に入院中の患者の延べ数</p> <p>※2 せのお病院の一般病床は、平成30年5月から全て地域包括ケア病床に転換している。</p>	項目		平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	平成28年度実績	病床稼働率 ※1	一般病床 ※2	35.0%	—	—	—	67.3%	地域包括ケア病床	83.0%	88.5%	86.6%	86.9%	72.9%
項目		平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	平成28年度実績															
病床稼働率 ※1	一般病床 ※2	35.0%	—	—	—	67.3%															
	地域包括ケア病床	83.0%	88.5%	86.6%	86.9%	72.9%															

中期目標	イ 高度専門医療を担っている病院の後方支援病院としての役割を担うこと。特に市民病院とは市立総合医療センターとして一体的な医療サービスの提供に努めること。
------	--

中期計画	イ 市立総合医療センターとして市民病院と一体となった医療サービスの提供を図るとともに、地域の高度医療機関で一次治療を受けた患者を受け入れる後方支援の役割を果たす。
------	---

年度評価 結果推移	<table border="1"> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>令和元年度</td> <td>令和 2 年度</td> <td>令和 3 年度</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td></td> </tr> </table>	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	B	B	B	
平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度						
B	B	B							

実績	<p>イ 高度専門医療を行っている急性期病院の後方支援の役割を果たすため、平成30年5月に全床を地域包括ケア病床とした。</p> <p>近隣の急性期病院と円滑な連携を行うため、空床状況について随時ファックスで情報発信するとともに、直接訪問して当院の状況や機能などを病床管理担当者へ説明するように努めた。</p> <p>市民病院とは電子カルテを共用することで患者情報を共有し、一体化した医療提供を実現した。また、市民病院をはじめ、その他の急性期病院からの新型コロナ回復後の患者の受入れにも努めた。</p> <p>【急性期病院からの紹介患者受入状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>平成30年度実績</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和2年度実績</th> <th>令和3年度実績</th> <th>平成28年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>岡山市市民病院</td> <td>253件</td> <td>219件</td> <td>205件</td> <td>205件</td> <td>120件</td> </tr> <tr> <td>岡山労災病院</td> <td>5件</td> <td>11件</td> <td>10件</td> <td>16件</td> <td>9件</td> </tr> <tr> <td>岡山赤十字病院</td> <td>29件</td> <td>26件</td> <td>37件</td> <td>29件</td> <td>20件</td> </tr> <tr> <td>倉敷中央病院</td> <td>6件</td> <td>4件</td> <td>9件</td> <td>9件</td> <td>6件</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>15件</td> <td>13件</td> <td>14件</td> <td>14件</td> <td>4件</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>308件</td> <td>273件</td> <td>275件</td> <td>273件</td> <td>159件</td> </tr> </tbody> </table> <p>【地域包括ケア病床の延入院患者数】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>平成30年度実績</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和2年度実績</th> <th>令和3年度実績</th> <th>平成28年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地域包括ケア病床の延入院患者数</td> <td>17,982人</td> <td>19,426人</td> <td>19,000人</td> <td>19,037人</td> <td>6,021人</td> </tr> </tbody> </table> <p>※地域包括ケア病床の沿革（せのお病院全60床）</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成27年12月～：24床（一般病床36床） 平成29年7月～：40床（一般病床20床） 平成30年4月～：52床（一般病床8床） 平成30年5月～：60床（一般病床0床） 	項目	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	平成28年度実績	岡山市市民病院	253件	219件	205件	205件	120件	岡山労災病院	5件	11件	10件	16件	9件	岡山赤十字病院	29件	26件	37件	29件	20件	倉敷中央病院	6件	4件	9件	9件	6件	その他	15件	13件	14件	14件	4件	計	308件	273件	275件	273件	159件	項目	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	平成28年度実績	地域包括ケア病床の延入院患者数	17,982人	19,426人	19,000人	19,037人	6,021人
項目	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	平成28年度実績																																																		
岡山市市民病院	253件	219件	205件	205件	120件																																																		
岡山労災病院	5件	11件	10件	16件	9件																																																		
岡山赤十字病院	29件	26件	37件	29件	20件																																																		
倉敷中央病院	6件	4件	9件	9件	6件																																																		
その他	15件	13件	14件	14件	4件																																																		
計	308件	273件	275件	273件	159件																																																		
項目	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	平成28年度実績																																																		
地域包括ケア病床の延入院患者数	17,982人	19,426人	19,000人	19,037人	6,021人																																																		

中期目標	ウ 救急告示病院として周辺地域の医療機関と協力して初期救急医療を提供する役割を果たすこと。								
中期計画	ウ 周辺地域の救急医療機関と協力しながら、救急告示病院として初期救急医療を提供する役割を果たす。								
年度評価 結果推移	<table border="1" data-bbox="461 501 1374 609"> <tr> <td data-bbox="464 501 691 555">平成 30 年度</td> <td data-bbox="695 501 922 555">令和元年度</td> <td data-bbox="927 501 1153 555">令和 2 年度</td> <td data-bbox="1158 501 1385 555">令和 3 年度</td> </tr> <tr> <td data-bbox="464 555 691 609">B</td> <td data-bbox="695 555 922 609">B</td> <td data-bbox="927 555 1153 609">B</td> <td data-bbox="1158 555 1385 609"></td> </tr> </table>	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	B	B	B	
平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度						
B	B	B							
実績	<p>ウ 都窪医師会や北児島医師会に所属する近隣開業医からの意見を聞きながら、在宅患者の急性増悪時のバックアップ病院として役割を果たした。</p> <p>また、医師の専門性や実施できる検査体制により、せのお病院で対応困難な症例については、適切な救急医療機関を紹介することで初期救急の役割を果たした。</p>								

中期目標	エ 周辺地域の保健医療福祉関係機関と連携し、地域包括ケアの充実に貢献すること。
------	---

中期計画	<p>エ 医療・介護連携による地域貢献として、西ふれあいセンターが運営する訪問介護事業の夜間業務について、せのお病院が場所を提供する。また、地域の医療機関や地域包括支援センター等と連携して、地域に戻る患者や通院患者に加え、在宅での支援が想定される患者等の把握や、関係機関等との療養及び介護を意識した情報共有に努める。</p> <p>地域包括ケア病床については、入院前から在宅移行を想定した多職種との患者情報の共有及び連携に努めるなど、周辺地域の保健医療福祉関係機関との連携により地域包括ケアに貢献していく。</p>
------	---

目標指標の推移						
項目	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	第2期中期計画目標	平成28年度実績
地域医療機関等の参加する講演会開催数	4回	4回	0回	4回	4回	1回

年度評価 結果推移	<table border="1"> <thead> <tr> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>B</td> <td>B</td> <td>C</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	B	B	C	
平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度						
B	B	C							

実績	<p>エ 西ふれあいセンターが運営する訪問介護事業の夜間業務の待機場所の提供については、平成30年度までは行っていたがそれ以降依頼されていない。都窪医師会主催の多職種懇親会、北児島医師会主催の北児島ケアネット、南区西地域コアメンバー会議（都窪・北児島医師会に所属する医療機関の多職種による会議）などに参加することで、近隣医療機関の方針や要望を聴取することができ、円滑な医療連携に役立てることができた。</p> <p>また、地域医療機関等の参加する講演会を開催することで、多くの医療・介護・福祉従事者と顔の見える関係を構築し、お互いの施設の特徴を理解することで、患者の退院後の生活を共に支えていく医療・介護連携を行うことができた。</p> <p>これらの取組により、地域住民が住み慣れた地域で暮らし続けることができる地域包括ケアシステムに貢献できた。</p>
----	--

中期目標	オ 大規模災害に備え、傷病者の受入れや医療救護ができる体制を構築すること。								
中期計画	オ 大規模災害に備え、医薬品、食料等を備蓄する。災害発生時には、地域の医療機関と連携し、地域の拠点病院としての医療救護活動を行う。また、災害時の医療救護活動のための研修も行う。								
年度評価 結果推移	<table border="1" data-bbox="461 521 1375 631"> <thead> <tr> <th data-bbox="461 521 691 577">平成 30 年度</th> <th data-bbox="694 521 924 577">令和元年度</th> <th data-bbox="927 521 1157 577">令和 2 年度</th> <th data-bbox="1160 521 1375 577">令和 3 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="461 580 691 631">C</td> <td data-bbox="694 580 924 631">C</td> <td data-bbox="927 580 1157 631">B</td> <td data-bbox="1160 580 1375 631"></td> </tr> </tbody> </table>	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	C	C	B	
平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度						
C	C	B							
実績	オ 大規模災害に備え、業務継続計画（BCP）を策定し、医薬品、食料などの備蓄品 3 日間分を充足させた。また、老朽化した自家発電装置の修繕も行った。そして、災害拠点病院である市民病院と共同で、南海トラフ地震の発生を想定した医療救護活動の訓練を行った。								

2 医療の質の向上

(1) 安全・安心な医療の提供

中期目標	<p>ア 市民に信頼される安全・安心な医療を提供するため、医療安全に係る情報の収集及び分析を行うとともに、全職員の医療安全に対する知識向上に努め、医療事故の予防及び再発防止対策に取り組むなど、積極的かつ組織的に医療安全対策を徹底すること。</p>												
中期計画	<p>ア 医療安全に関する会議及び委員会を定期的を開催し、インシデント及びアクシデントに関する情報の収集及び分析を速やかに行う。その結果を反映させた上で、医療事故の予防及び再発の防止に取り組むことにより、患者が安心して医療を受けることのできる環境を整備するとともに、全職員の医療安全に関わる知識の向上に努める。また、研修などを通じて情報共有することにより、医療事故の予防及び再発防止に病院全体で取り組む。</p> <p>重大な医療事故が発生した場合には、院内医療事故対策委員会を速やかに開催し、徹底して事故発生の原因分析を行い、再発防止に向けた組織的な対応を図る。</p>												
年度評価 結果推移	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>平成 30 年度</th> <th>令和元年度</th> <th>令和 2 年度</th> <th>令和 3 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	B	B	B					
平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度										
B	B	B											
実績	<p>ア 中期目標期間後半は新型コロナの影響があったものの、期間を通じて多職種による会議や委員会を定期的を開催し、インシデント及びアクシデントに関する情報の収集及び分析を速やかに行い、改善策を講じて再発防止に取り組んだ。また、患者が安心して医療を受けることのできる環境を整備するとともに、全職員の医療安全に関わる知識の向上に努めた。</p> <p>医療安全研修については毎年度実施しているが、中期目標期間後半は新型コロナの影響により集合型の研修を行うことが困難となったため、web研修との併用により全職員の参加を促した。</p> <p>これらの取組により、病院全体で医療事故の予防及び再発防止を図った。</p> <p>【実績値】</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>平成 30 年度 実績</th> <th>令和 元年度 実績</th> <th>令和 2 年度 実績</th> <th>令和 3 年度 実績</th> <th>平成 28 年度 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療安全研修</td> <td style="text-align: center;">20 回</td> <td style="text-align: center;">18 回</td> <td style="text-align: center;">3 回</td> <td style="text-align: center;">4 回</td> <td style="text-align: center;">19 回</td> </tr> </tbody> </table> <p>※令和 2 年度は e ラーニングによる</p> <p>※令和 3 年度は e ラーニングと集合型研修を併用</p>	項目	平成 30 年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2 年度 実績	令和 3 年度 実績	平成 28 年度 実績	医療安全研修	20 回	18 回	3 回	4 回	19 回
項目	平成 30 年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2 年度 実績	令和 3 年度 実績	平成 28 年度 実績								
医療安全研修	20 回	18 回	3 回	4 回	19 回								

【インシデント・アクシデント報告・分析件数】

項目	平成 30年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2年度 実績	令和 3年度 実績	平成 28年度 実績
インシデント報告・ 分析件数	2,357件	2,517件	2,228件	2,248件	2,206件
アクシデント報告・ 分析件数	37件	38件	33件	48件	27件

※ただし、インシデント報告・分析件数はアクシデント報告・分析件数を含む

【会議の開催数】

項目	平成 30年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2年度 実績	令和 3年度 実績	平成 28年度 実績
医療安全管理委員会	12回	12回	12回	12回	12回
医療安全推進会議 ※	12回	—	—	—	12回
医療安全推進員ワーキング	11回	11回	12回	11回	11回
薬剤検討ワーキング	8回	3回	0回	0回	13回
医療安全管理室会議	47回	46回	50回	49回	43回

※院内全体の会議等の見直しにより、令和元年度から廃止。

中期目標	イ 院内感染防止に対する教育、訓練及び啓発を徹底するとともに、問題点を把握し、改善策を講ずる等の院内感染防止対策を確実に実施すること。
------	---

中期計画	イ 院内感染対策委員会を定期的開催し問題点や課題を検討、解決し、全職員の院内感染に関わる知識の向上に努め、研修への積極的な参加を促す。また、院内感染防止マニュアルの適宜見直しを行い、院内感染の発生防止に取り組む。
------	--

年度評価 結果推移	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
	A	S	S	

実績	<p>イ 院内感染管理システムを利用し、耐性菌キャリアを含むサーベイランスの強化を中期目標期間を通じて継続した。抗菌薬適正使用支援チーム（AST）の活動開始により、抗菌薬使用状況を確認し、感染症の院内動向を把握し耐性菌の発生を最低限に抑制した。また、他施設と継続して相互に訪問評価を実施した。院内感染に関する職員の知識の向上を図るため、研修会を実施した。また、コロナ禍においてはeラーニングを活用した。</p> <p>感染症に罹患した職員の出勤停止期間・自宅療養期間の管理を継続して行った。</p> <p>感染制御チーム（ICT）による院内ラウンドを週に1回継続して行い、血液培養陽性者に対する支援は365日体制で行った。多剤耐性菌であるMRSA(メチシリン耐性ブドウ球菌)、MDRP（多剤耐性緑膿菌）、ESBL（基質特異性拡張型ベータラクタマーゼ）産生菌、CRE（カルバペネム耐性腸球菌）等の持込に対するスクリーニングの強化とベッドコントロールを適正に継続したことで、院外からの持ち込み症例は多々あったにも関わらず、アウトブレイクを起こすことなく院内感染を減少させた。</p> <p>新型コロナ対策については、県内発生に対応して、岡山市保健所及び岡山県との連絡を緊密に行い、厚生労働省からの通知に迅速に対応しつつ、院内体制を構築した。また、職員の健康管理や入院・外来患者の管理を徹底した。それにより、依頼のあった疑似症例の患者や確定患者を全て受け入れた。</p> <p>【実績値】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">項目</th> <th style="width: 10%;">平成 30 年度 実績</th> <th style="width: 10%;">令和 元年度 実績</th> <th style="width: 10%;">令和 2 年度 実績</th> <th style="width: 10%;">令和 3 年度 実績</th> <th style="width: 10%;">平成 28 年度 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>院内感染対策委員会開催数</td> <td style="text-align: center;">12 回</td> <td style="text-align: center;">12 回</td> <td style="text-align: center;">12 回</td> <td style="text-align: center;">12 回※</td> <td style="text-align: center;">12 回</td> </tr> </tbody> </table> <p>※うち2回は書面で対応した。</p>	項目	平成 30 年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2 年度 実績	令和 3 年度 実績	平成 28 年度 実績	院内感染対策委員会開催数	12 回	12 回	12 回	12 回※	12 回
項目	平成 30 年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2 年度 実績	令和 3 年度 実績	平成 28 年度 実績								
院内感染対策委員会開催数	12 回	12 回	12 回	12 回※	12 回								

【職員研修開催数】

項目	平成 30年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2年度 実績	令和 3年度 実績	平成 28年度 実績
院内感染に関わる職員研修	33回	43回	16回※	15回※	35回

※新型コロナの影響により、うち3テーマについては、eラーニングも活用し、全員参加を図った。

中期目標	ウ 医療法をはじめとする関係法令を遵守することはもとより、個人情報の保護及び情報公開に関して適切に対応するなど行動規範と倫理を確立し、適正な病院運営を行うこと。
------	--

中期計画	ウ 個人情報保護マニュアルを適宜更新するとともに、コンプライアンスに関する研修を定期的で開催して、職員の行動規範と倫理を徹底する。また、カルテなどの個人情報の保護及び情報公開に関しては、市の条例に基づき適切に対応する。
------	---

年度評価 結果推移	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>令和元年度</td> <td>令和 2 年度</td> <td>令和 3 年度</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td></td> </tr> </table>	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	B	B	B	
平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度						
B	B	B							

実績	<p>ウ 新型コロナ拡大により令和元年度以降に予定していた集合研修の実施が困難となったが、ポータルサイトへの資料の掲載、動画による研修など代替手段を講じた。また必要に応じて院内ポータルサイトに個人情報保護やコンプライアンス遵守について文書を掲載し、職員へ周知を行った。またマニュアルの見直しや更新を速やかに行い、常時実態に即した内容にした。</p> <p>なお、改正個人情報保護法により、令和 5 年度から病院を運営する地方独立行政法人はほぼ民間と同じ内容での対応を求められ、法人の規程作成等の対応が必要となるため、情報収集を開始した。</p> <p>【実績値】</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="2">項目</th> <th>平成 30 年度 実績</th> <th>令和 元年度 実績</th> <th>令和 2 年度 実績</th> <th>令和 3 年度 実績</th> <th>平成 28 年度 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">個人情報 保護研修</td> <td>全職員対象の研修</td> <td style="text-align: center;">3 回</td> <td style="text-align: center;">0 回※1</td> <td style="text-align: center;">0 回※1</td> <td style="text-align: center;">0 回※2</td> <td style="text-align: center;">3 回</td> </tr> <tr> <td>新任職員研修</td> <td style="text-align: center;">7 回</td> <td style="text-align: center;">7 回</td> <td style="text-align: center;">4 回</td> <td style="text-align: center;">2 回</td> <td style="text-align: center;">1 回</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 新型コロナの拡大状況に鑑み、代替としてポータルサイトに資料を掲載して周知した。</p> <p>※2 新型コロナの拡大状況に鑑み、代替としてポータルサイトに研修動画とアンケートを掲載した。</p> <p>【実績値】</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>平成 30 年度 実績</th> <th>令和 元年度 実績</th> <th>令和 2 年度 実績</th> <th>令和 3 年度 実績</th> <th>平成 28 年度 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療情報開示件数</td> <td style="text-align: center;">90 件</td> <td style="text-align: center;">78 件</td> <td style="text-align: center;">112 件</td> <td style="text-align: center;">113 件</td> <td style="text-align: center;">34 件</td> </tr> </tbody> </table>	項目		平成 30 年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2 年度 実績	令和 3 年度 実績	平成 28 年度 実績	個人情報 保護研修	全職員対象の研修	3 回	0 回※1	0 回※1	0 回※2	3 回	新任職員研修	7 回	7 回	4 回	2 回	1 回	項目	平成 30 年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2 年度 実績	令和 3 年度 実績	平成 28 年度 実績	医療情報開示件数	90 件	78 件	112 件	113 件	34 件
項目		平成 30 年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2 年度 実績	令和 3 年度 実績	平成 28 年度 実績																											
個人情報 保護研修	全職員対象の研修	3 回	0 回※1	0 回※1	0 回※2	3 回																											
	新任職員研修	7 回	7 回	4 回	2 回	1 回																											
項目	平成 30 年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2 年度 実績	令和 3 年度 実績	平成 28 年度 実績																												
医療情報開示件数	90 件	78 件	112 件	113 件	34 件																												

(2) 総合的な診療体制の確立とチーム医療の推進

中期目標	安全で質の高い医療を安定的・継続的に提供するため、岡山ERとの連携強化による総合的な診療体制を確立するとともに、多職種連携によりチーム全体で医療を推進するなど、診療体制の強化・充実を図ること。
------	--

中期計画	<p>総合的な診療を充実させるために、体制と業務の両面において強化を図る。</p> <p>体制面では、人材育成のため平成29年10月から市民病院内で運用を開始した人材開発センターを本格稼働させ、医療従事者への教育の質の向上を図る。</p> <p>業務面では、岡山ERと各診療科との連携による救急診療及び専門診療をさらに充実させ、ICT、NSTや口腔ケアをはじめ多職種で構成されるチーム医療を積極的に行う。</p>
------	--

目標指標の推移

項目	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	第2期中期計画目標	平成28年度実績	
スキルアップ研修 (全職員対象)	16回	22回	6回	6回	24回	20回	
病棟カンファレンス	入院時カンファレンス	7,184回	5,628回	4,627回	4,459回	5,500回	5,429回
	その他カンファレンス	1,571回	1,439回	1,603回	1,543回	1,800回	1,717回

年度評価 結果推移	<table border="1"> <thead> <tr> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>A</td> <td>A</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	A	A	A	
平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度						
A	A	A							

実績	<p>診療体制を改善し堅持していくために従来の新採用者研修に加え、人材開発センター主導による中途入職者、育児休業復帰者合同研修を実施することで研修体制の強化を行った。</p> <p>人材育成については、平成29年10月から市民病院内で運用を開始した人材開発センターを平成30年度から本格稼働させ、医療従事者への教育の質の向上を図った。具体的には、人材開発センターで多職種にわたる研修会を一元管理することで効率化した。</p> <p>業務面については、病棟カンファレンスを充実し、入院時カンファレンス、その他のカンファレンスで目標を大きく上回る実施を達成できた。その他栄養サポートチーム(NST)研修会、救急搬送事例検討会など多職種での研修会を開催し、各科専門領域診療の強化、救急・総合診療の充実、チーム医療・他部門間の連携強化の更なる向上を図った。</p> <p>令和元年度には目標が達成可能なレベルに到達してきたが、新型コロナの蔓延により対面</p>
----	--

型の研修やカンファレンスが困難となり実施回数が大幅に低下し、IT技術を応用したリモート型の研修やカンファレンスを導入したが、平時に計画した回数の実施には至らなかった。

しかしながら新型コロナ蔓延時に内容や必要度に応じて実施したことで目標である診療体制に関わる質の低下は防止できており、質的な目標は達成できたと考えられる。

(3) 医療の標準化の推進

中期目標	ア 法人内の医療系と事務系を統合した総合情報システムの活用により、医療の質の向上、さらには患者サービスの向上を図ること。								
中期計画	ア 法人内の医療系と事務系を統合（物理統合・論理分離）したネットワークインフラの上で一元管理している総合的な医療情報システムのデータベースを最大限に活用する。また、デイリーで更新した経営指標に係る数値を全職員が容易に確認できるように、継続してポータルサイト上で可視化する。これらの取組により医療の質向上、患者サービスの向上、経営改善意識の向上につなげていく。								
年度評価 結果推移	<table border="1"><thead><tr><th>平成 30 年度</th><th>令和元年度</th><th>令和 2 年度</th><th>令和 3 年度</th></tr></thead><tbody><tr><td>A</td><td>A</td><td>A</td><td></td></tr></tbody></table>	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	A	A	A	
平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度						
A	A	A							
実績	<p>ア 総合情報システムでは、病院間の回線、インターネット接続方法の変更、ネットワーク機器の計画的な更新と機能強化を行い、通信環境の改善と安定した通信環境の構築を行った。</p> <p>電子カルテシステムでは、現行システムの安定稼働に努めながら、次期システムへの更新作業を行った。</p> <p>情報共有のため構築されたポータルサイトでは、日々の経営状況や、法人で決定した診療の方針等の重要な情報を全職員にタイムリーに伝達した。</p> <p>これらの取組により、患者サービスの向上、医療現場の効率化を図った。</p>								

中期目標	イ 客観的な根拠に基づく個々の患者への最適な医療を提供するとともに、クリニカルパスの充実と活用による医療の標準化に取り組むこと。
------	--

中期計画	イ 厚生労働省や学会等のガイドラインに基づいて、現時点の標準とされる医療の提供に積極的に取り組む。その方法としてクリニカルパスの充実と活用を推進し、アウトカムに基づく新しいクリニカルパスの作成を進める。
------	---

目標指標の推移						
項目	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	第2期中期計画目標	平成28年度実績
クリニカルパス種類数	239	273	250	265	145	123

年度評価 結果推移	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	A	A	A	

実績	イ クリニカルパスの種類数及び使用率は上昇しており、中期目標期間の最終年度である令和3年度には、種類数については、内容を整備しつつも265件、使用率は59%と目標値を大きく上回ることができた。																								
	クリニカルパス大会については毎年開催しているが、中期目標期間後半は、新型コロナウイルスの影響等で開催が制限されたが、オンライン開催を実施し、院内院外問わず知見を共有することができた。オンラインでの参加者は、初回実施時は400名を超える参加となり、その後は参加申込みを個人単位から施設単位に変更し60施設を超える参加となった。																								
	中期目標期間を通して、クリニカルパスの使用方法等について勉強会や、作成や改訂の支援を積極的に行い、適正使用に努めた。また、毎月チームで会議を行い、クリニカルパスの諸問題についても改善に努めた。																								
	【実績値】																								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>平成30年度実績</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和2年度実績</th> <th>令和3年度実績</th> <th>平成28年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>クリニカルパス使用率</td> <td>44.7%</td> <td>54.8%</td> <td>56.0%</td> <td>59.0%</td> <td>36.3%</td> </tr> <tr> <td>クリニカルパス大会</td> <td>5回</td> <td>4回</td> <td>4回</td> <td>3回</td> <td>6回</td> </tr> <tr> <td>クリニカルパス開発支援会議 ※</td> <td>12回</td> <td>12回</td> <td>12回</td> <td>12回</td> <td>12回</td> </tr> </tbody> </table>	項目	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	平成28年度実績	クリニカルパス使用率	44.7%	54.8%	56.0%	59.0%	36.3%	クリニカルパス大会	5回	4回	4回	3回	6回	クリニカルパス開発支援会議 ※	12回	12回	12回	12回	12回
項目	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	平成28年度実績																				
クリニカルパス使用率	44.7%	54.8%	56.0%	59.0%	36.3%																				
クリニカルパス大会	5回	4回	4回	3回	6回																				
クリニカルパス開発支援会議 ※	12回	12回	12回	12回	12回																				
	※令和元年度に「クリニカルパス委員会」から「クリニカルパス開発支援会議」へ名称変更。																								

(4) 調査・研究の実施

中期目標	医療に関する調査や臨床研究、治験を推進する体制を整備し、積極的に取り組むこと。
------	---

中期計画	自院での研究や他の医療機関との共同研究を含め、新しい薬剤や医療機器の開発、新しい治療法の開発等に関する臨床試験や治験を積極的に推進し、国の承認に貢献することで、研究レベルの医療を市民が通常受けることができる医療となるように努める。また、その成果をもとに学会発表や研究論文として発表する。
------	---

年度評価 結果推移	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">平成 30 年度</td> <td style="text-align: center;">令和元年度</td> <td style="text-align: center;">令和 2 年度</td> <td style="text-align: center;">令和 3 年度</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td></td> </tr> </table>	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	A	A	B	
平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度						
A	A	B							

実績	<p>治験・臨床試験・新薬販売後調査について、中期目標期間前半においては順調に増加傾向にあったが、令和2年度は新型コロナの影響により減少傾向となった。しかし、受託能力についてレベルアップが進んだことにより令和3年度は新規受託が順調に進みコロナ禍以前の水準に戻りつつある。新薬販売後調査は、新型コロナの影響がみられたが増加傾向となった。</p> <p>【実績値】</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>平成 30 年度 実績</th> <th>令和 元年度 実績</th> <th>令和 2 年度 実績</th> <th>令和 3 年度 実績</th> <th>平成 28 年度 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">治験</td> <td>継続：16 件</td> <td>継続：18 件</td> <td>継続：21 件</td> <td>継続：14 件</td> <td>継続：18 件</td> </tr> <tr> <td>新規：7 件</td> <td>新規：8 件</td> <td>新規：4 件</td> <td>新規：9 件</td> <td>新規：13 件</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">新薬販売 後調査</td> <td>継続：60 件</td> <td>継続：65 件</td> <td>継続：35 件</td> <td>継続：61 件</td> <td>継続：53 件</td> </tr> <tr> <td>新規：16 件</td> <td>新規：18 件</td> <td>新規：15 件</td> <td>新規：21 件</td> <td>新規：16 件</td> </tr> <tr> <td>臨床試験</td> <td style="text-align: center;">46 件</td> <td style="text-align: center;">63 件</td> <td style="text-align: center;">33 件</td> <td style="text-align: center;">25 件</td> <td style="text-align: center;">14 件</td> </tr> </tbody> </table>	項目	平成 30 年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2 年度 実績	令和 3 年度 実績	平成 28 年度 実績	治験	継続：16 件	継続：18 件	継続：21 件	継続：14 件	継続：18 件	新規：7 件	新規：8 件	新規：4 件	新規：9 件	新規：13 件	新薬販売 後調査	継続：60 件	継続：65 件	継続：35 件	継続：61 件	継続：53 件	新規：16 件	新規：18 件	新規：15 件	新規：21 件	新規：16 件	臨床試験	46 件	63 件	33 件	25 件	14 件
項目	平成 30 年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2 年度 実績	令和 3 年度 実績	平成 28 年度 実績																														
治験	継続：16 件	継続：18 件	継続：21 件	継続：14 件	継続：18 件																														
	新規：7 件	新規：8 件	新規：4 件	新規：9 件	新規：13 件																														
新薬販売 後調査	継続：60 件	継続：65 件	継続：35 件	継続：61 件	継続：53 件																														
	新規：16 件	新規：18 件	新規：15 件	新規：21 件	新規：16 件																														
臨床試験	46 件	63 件	33 件	25 件	14 件																														

3 市民・患者サービスの向上

(1) 患者中心の医療の提供

中期目標	ア 全ての患者の権利と人格を尊重し、患者への十分な説明と同意のもとに患者の視点に立った質の高い医療を継続して提供すること。																		
中期計画	ア 全ての患者の権利と人格を尊重し、患者の視点に立った質の高い医療を継続して提供するため、患者への十分な説明と同意のもとに医療を提供するインフォームドコンセントを徹底するとともに、セカンドオピニオンの相談に適切に対応する。また、患者との信頼関係構築のため、患者側と医療機関側の対話の橋渡しをする院内医療メディエーターの導入の準備を進めるなど、医療相談窓口機能を強化する。																		
年度評価 結果推移	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>平成 30 年度</th> <th>令和元年度</th> <th>令和 2 年度</th> <th>令和 3 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	B	B	B											
平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度																
B	B	B																	
実績	<p>ア インフォームドコンセントについては、書式の整備及び記録の在り方について検討を進め、患者への確実な履行と質の担保に努めた。</p> <p>また、セカンドオピニオンについては、患者の希望により他院セカンドオピニオン外来への相談調整を行い、また、他院患者からの当院セカンドオピニオン外来への相談受入れの調整を行った。</p> <p>医療相談窓口としては、患者相談室、がん相談支援センターを中心に相談を受け付け、週に一度医療安全管理者も含めた多職種カンファレンスを開催した。相談実績や内容は各部署へ周知し、改善が必要な事項については問題提起を行い、解決を図った。</p> <p>患者との信頼関係構築のために、職員が医療メディエーターの研修を受け、相談対応の質向上に努めた。</p> <p>【セカンドオピニオン外来件数】</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>平成 30 年度 実績</th> <th>令和 元年度 実績</th> <th>令和 2 年度 実績</th> <th>令和 3 年度 実績</th> <th>平成 28 年度 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>他院から市民病院</td> <td style="text-align: center;">2 件</td> <td style="text-align: center;">3 件</td> <td style="text-align: center;">5 件</td> <td style="text-align: center;">5 件</td> <td style="text-align: center;">7 件</td> </tr> <tr> <td>市民病院から他院※</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">1 件</td> <td style="text-align: center;">3 件</td> <td style="text-align: center;">3 件</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </tbody> </table> <p>※平成 30 年度は集計していない。</p>	項目	平成 30 年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2 年度 実績	令和 3 年度 実績	平成 28 年度 実績	他院から市民病院	2 件	3 件	5 件	5 件	7 件	市民病院から他院※	—	1 件	3 件	3 件	—
項目	平成 30 年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2 年度 実績	令和 3 年度 実績	平成 28 年度 実績														
他院から市民病院	2 件	3 件	5 件	5 件	7 件														
市民病院から他院※	—	1 件	3 件	3 件	—														

中期目標	イ 患者との信頼関係の構築に努め、多職種と連携して医療を提供すること。
------	-------------------------------------

中期計画	<p>イ 患者に対して、薬物療法の安全性と質の向上のために薬剤師による薬剤管理指導、無菌製剤処理及び外来化学療法の一層の充実を図る。また、入院患者におけるチーム医療の向上のため、平成28年度より開始した病棟薬剤業務の充実に努める。</p> <p>さらに、管理栄養士による各種栄養食事指導及び入院患者に対しての食事相談についても一層の充実を図る。</p>
------	--

年度評価 結果推移	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">A</td> <td></td> </tr> </table>	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	A	A	A	
平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度						
A	A	A							

実績	<p>イ 患者に対する、薬剤管理指導、無菌製剤処理及び外来化学療法についての取組は、いずれの年度においても目標を達成し、薬物療法の安全性と質の向上が図られた。また、チーム医療の向上のため病棟薬剤業務の充実では、ICU、HCUを含む10病棟に薬剤師の配置も行った。注射薬の個人セットでは安全面を考慮し、薬剤部での24時間対応とし、質及び安全面がさらに向上できた。</p> <p>各種栄養指導については、新型コロナ陽性患者の診療や予防対策のために目標件数を達成することができなかったが、感染対策を十分に行い、必要な患者への栄養指導を実施し、多職種チームによる患者の食事療法のサポートを継続した。</p> <p>入院患者食事相談については、食事サービス向上のため、当院の管理栄養士、委託業者の栄養士及び調理師が協働で食事相談を実施しており、年々相談件数を伸ばしていたが、令和3年度は、感染予防のため、横断的に患者面談を行う機会が減少した。なお、入院患者の病院食嗜好調査についても、コロナ禍にあっても実施を継続し、病院食に対する患者の評価やニーズを把握した。</p> <p>【実績値】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>平成30年度実績</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和2年度実績</th> <th>令和3年度実績</th> <th>平成28年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薬剤管理指導件数(薬剤管理指導料ⅠⅡⅢ, 退院)</td> <td style="text-align: center;">16,553件</td> <td style="text-align: center;">16,278件</td> <td style="text-align: center;">15,468件</td> <td style="text-align: center;">15,530件</td> <td style="text-align: center;">10,379件</td> </tr> <tr> <td>無菌製剤処理料件数(ⅠⅡ)</td> <td style="text-align: center;">3,843件</td> <td style="text-align: center;">4,117件</td> <td style="text-align: center;">3,894件</td> <td style="text-align: center;">4,255件</td> <td style="text-align: center;">4,147件</td> </tr> <tr> <td>外来化学療法加算数(Ⅰ)</td> <td style="text-align: center;">1,179件</td> <td style="text-align: center;">1,518件</td> <td style="text-align: center;">1,439件</td> <td style="text-align: center;">1,525件</td> <td style="text-align: center;">1,532件</td> </tr> <tr> <td>各種栄養指導合計件数</td> <td style="text-align: center;">1,823件</td> <td style="text-align: center;">1,704件</td> <td style="text-align: center;">1,326件</td> <td style="text-align: center;">1,356件</td> <td style="text-align: center;">1,480件</td> </tr> <tr> <td>入院患者食事相談件数</td> <td style="text-align: center;">332件</td> <td style="text-align: center;">414件</td> <td style="text-align: center;">474件</td> <td style="text-align: center;">365件</td> <td style="text-align: center;">371件</td> </tr> </tbody> </table>	項目	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	平成28年度実績	薬剤管理指導件数(薬剤管理指導料ⅠⅡⅢ, 退院)	16,553件	16,278件	15,468件	15,530件	10,379件	無菌製剤処理料件数(ⅠⅡ)	3,843件	4,117件	3,894件	4,255件	4,147件	外来化学療法加算数(Ⅰ)	1,179件	1,518件	1,439件	1,525件	1,532件	各種栄養指導合計件数	1,823件	1,704件	1,326件	1,356件	1,480件	入院患者食事相談件数	332件	414件	474件	365件	371件
項目	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	平成28年度実績																																
薬剤管理指導件数(薬剤管理指導料ⅠⅡⅢ, 退院)	16,553件	16,278件	15,468件	15,530件	10,379件																																
無菌製剤処理料件数(ⅠⅡ)	3,843件	4,117件	3,894件	4,255件	4,147件																																
外来化学療法加算数(Ⅰ)	1,179件	1,518件	1,439件	1,525件	1,532件																																
各種栄養指導合計件数	1,823件	1,704件	1,326件	1,356件	1,480件																																
入院患者食事相談件数	332件	414件	474件	365件	371件																																

(各種栄養指導実績内訳)

項目	平成 30年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2年度 実績	令和 3年度 実績	平成 28年度 実績
個人指導	(外来) 505件 (入院) 840件	(外来) 527件 (入院) 810件	(外来) 476件 (入院) 626件	(外来) 612件 (入院) 594件	(外来) 262件 (入院) 783件
集団指導	96件	76件	0件	0件	77件
人間ドック、特定健診	69件	65件	37件	38件	53件
透析予防指導	313件	226件	187件	112件	305件
計	1,823件	1,704件	1,326件	1,356件	1,480件

【病院食嗜好調査】

項目	平成 30年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2年度 実績	令和 3年度 実績	平成 28年度 実績
実施回数	3回	3回	3回	3回	3回
1回目実施者数	145名	146名	189名	183名	133名
2回目実施者数	152名	133名	201名	215名	131名
3回目実施者数	153名	130名	203名	215名	147名

中期目標	ウ 患者ニーズの把握及び改善などによりサービスの向上を図るとともに、医療の質の向上につなげること。
------	---

中期計画	<p>ウ 患者満足度調査や投書箱の活用により、患者ニーズの動向を的確に把握し、サービスの向上を図るとともに、院内環境の整備を進め、快適な療養環境を提供することで、医療の質の向上につなげる。</p> <p>退院に際しては、地域連携室の登録医療機関と連携して、切れ目のない診療体制を強化していく。</p>
------	--

目標指標の推移						
【患者満足度調査結果（満足＋やや満足）】						
項目	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	第2期中期計画目標	平成28年度実績
入院	92.8%	94.7%	97.8%	97.0%	95.0%	94.7%
外来	92.0%	95.2%	97.9%	97.7%	80.0%	77.4%

年度評価結果推移	<table border="1"> <tr> <td>平成30年度</td> <td>令和元年度</td> <td>令和2年度</td> <td>令和3年度</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>B</td> <td>A</td> <td></td> </tr> </table>	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	B	B	A	
平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度						
B	B	A							

実績	<p>ウ 中期目標期間後半は、新型コロナ拡大により入院・外来ともに患者数が減少し、特に入院患者については調査件数が大きく減少した。しかし、入院については徹底した感染防止対策が評価され、満足度が落ち込むことはなかった。</p> <p>また、外来も患者数は減少したが、調査件数について回数の増加や期間の延長といった工夫で例年並みの調査件数を維持し、新型コロナに対する姿勢が高く評価され、高い満足度を維持できた。なお、提出された意見については内部で検討し対応した。</p> <p>当院の使命の一つである「断らない救急」を持続していくため、地域の病院との「市民病院地域ネットワーク」を活用するなど、各病院の機能、役割を明確化した上で、密な連携を図り、外来から入院、そして退院・転院と切れ目のない診療体制を強化することに努めた。</p> <p>退院支援に際しては、地域包括支援センターを始めとする地域の介護サービス関係者との情報共有を密に行い、円滑な在宅生活への移行と、安心して暮らせる環境づくりの支援を行った。特に生活課題が大きいケースや介入が困難なケースについては、地域ケア総合推進センターとも相談・連携が行えるよう、定期的な会議を開催した。</p>
----	--

また、地域の支援関係者との支援会議にも参加し、地域における諸問題を共有し、当院に求められる役割の把握に努めた。

(関連指標)【患者満足度調査結果(満足+やや満足)】

項目	平成 30年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2年度 実績	令和 3年度 実績	平成 28年度 実績
入院	692 (回答数 746)	735 (回答数 776)	491 (回答数 502)	487 (回答数 502)	848 (回答数 895)
外来	503 (回答数 547)	678 (回答数 712)	705 (回答数 720)	714 (回答数 731)	72 (回答数 93)

中期目標	エ 医療を提供した結果、患者やその家族との紛争が生じた場合には、適切な紛争解決の方法を確保すること。								
中期計画	エ 医療を提供した結果、患者やその家族との紛争が生じた場合には、円滑かつ円満な解決に努める。								
年度評価 結果推移	<table border="1" data-bbox="461 501 1374 609"> <tr> <td data-bbox="464 501 691 555">平成 30 年度</td> <td data-bbox="695 501 922 555">令和元年度</td> <td data-bbox="927 501 1153 555">令和 2 年度</td> <td data-bbox="1158 501 1374 555">令和 3 年度</td> </tr> <tr> <td data-bbox="464 555 691 609">B</td> <td data-bbox="695 555 922 609">B</td> <td data-bbox="927 555 1153 609">B</td> <td data-bbox="1158 555 1374 609"></td> </tr> </table>	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	B	B	B	
平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度						
B	B	B							
実績	エ 係争中の紛争は、顧問弁護士と協議・相談しながら早期決着に努力した。 日々発生する問題への対応は、専門職員を中心に迅速に行った。								

(2) 職員の接遇向上

中期目標	患者やその家族、市民から信頼を得られるように職員の意識を高め、接遇の向上に努めること。								
中期計画	患者満足度調査における接遇項目の評価から問題点、課題を抽出し、それらを改善するための研修会の実施及び接遇向上のための重点取組期間を設けることにより、患者やその家族に対する接遇向上に努める。								
年度評価 結果推移	<table border="1"><thead><tr><th>平成 30 年度</th><th>令和元年度</th><th>令和 2 年度</th><th>令和 3 年度</th></tr></thead><tbody><tr><td>A</td><td>B</td><td>B</td><td></td></tr></tbody></table>	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	A	B	B	
平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度						
A	B	B							
実績	教育・研修委員会を中心に接遇に関する全体研修やワークショップを実施し、意識向上に努めた。中期目標期間後半は新型コロナ拡大の影響もあり、全体研修の実施は見送られたが、『みなさんに安心を与えるために』のスローガンのもと、職員が自律的に行動できるよう各部署で接遇目標を検討し、実践した。また、集合研修の代替手段としてポータルサイトを活用した動画による研修も実施した。令和3年度には受付対応について、外部講師を招いての研修を実施した。								

(3) 市民や患者にわかりやすい情報発信

<p>中期目標</p>	<p>市立病院の役割や機能に加え、疾病予防や健康に関する情報等、市民や患者にわかりやすい情報発信に積極的に取り組むこと。</p>								
<p>中期計画</p>	<p>患者やその家族、市民に向けて、病院の役割・機能、診療実績、専門医の紹介等の診療情報、財務諸表等の経営情報、疾病予防や健康に関する情報等についてホームページや広報誌等を活用してわかりやすく発信する。加えて、広報媒体を通じてさまざまな行事やその様子を伝え、地域との関わりを深めることで地域での社会的認知向上を目指す。</p> <p>また、院内健康教室、市民公開講座等の開催情報を発信して健康教育を推進する。</p>								
<p>年度評価 結果推移</p>	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>平成 30 年度</th> <th>令和元年度</th> <th>令和 2 年度</th> <th>令和 3 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">A</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	B	A	A	
平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度						
B	A	A							
<p>実績</p>	<p>各病院において、広報誌やホームページ、院内掲示等を利用した定常的な広報活動を実施した。ホームページは令和元年7月に法人・市民病院・せのお病院でリニューアルを行い、デザイン性や機能性を向上させた。フェイスブックや定期的なFMラジオでの情報発信、連携医療機関や患者への広報物配布等も行い、さまざまな媒体での情報発信に努めた。</p> <p>効率的な広報としてメディアからの情報発信機会の増加のため、可能な限り新聞・テレビ等の取材要請への対応や健康情報発信企画への協力等を行い、市民が当法人から発信する情報に触れる機会を大幅に増やした。新型コロナに関する解説や感染防止についての情報の他、各種イベントの告知や診療科の取組についても積極的に発信した。</p> <p>市民を対象にした各種イベントや市民公開講座、健康相談、患者向け教室を実施し、コミュニケーションをとりながら健康情報に触れていただく機会を増やした。新型コロナで開催が困難な時期には、患者向け教室の一部についてはwebや資料配布等で患者・家族に向けて教育内容を継続的に公開した。岡山市地域ケア総合推進センターと共同で開催予定の患者向け教室も始めており、協力・連携しながら市民の健康教育が推進できるようになった。</p>								

4 地域医療ネットワークの推進

(1) 地域医療連携の推進

中期目標	<p>岡山大学をはじめとした急性期病院間での適切な役割分担を進めるとともに、回復期・慢性期の医療機関等、保健医療福祉関係機関との連携及び協力体制の充実を図ることにより、地域医療ネットワークの確立に努めること。</p> <p>また、地域医療連携を円滑に行っていくため、地域の医療機関との診療情報の共有化を図ること。</p>
------	--

中期計画	<p>急性期から回復期、慢性期、在宅まで切れ目のない医療を市民へ提供できるように地域医療ネットワークの確立に努める。そのために、岡山大学をはじめとした地域の各医療機関との適切な役割分担のもと、病院間、病院と診療所間の連携を促進するとともに、保健医療福祉関係機関との連携及び協力体制の充実を図る。</p> <p>市民病院は、脳卒中、大腿骨頸部骨折、がん等地域連携クリティカルパスの適用を推進するとともに、医療ネットワーク岡山（晴れやかネット）への参加によるカルテ情報の共有等により、地域医療機関との円滑な連携をより一層推進する。</p> <p>また、岡山県がん診療連携推進協議会を通じて連携拠点病院と協力してがん診療を進めていく。</p>
------	--

目標指標の推移

【市民病院】

項目	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	第2期中期計画目標	平成28年度実績
紹介率 ※1	63.3%	66.0%	70.0%	60.3%	50.0%	59.2%
逆紹介率 ※2	96.4%	90.7%	95.7%	85.5%	70.0%	94.4%
地域連携クリティカルパス適用件数	267件	370件	379件	323件	260件	251件

【せのお病院】（※再掲）

項目	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	第2期中期計画目標	平成28年度実績
紹介率 ※1	49.6%	55.7%	78.9%	68.6%	40.0%	53.9%
逆紹介率 ※2	60.7%	58.8%	95.8%	98.5%	57.0%	55.3%

※1 紹介率＝（紹介患者数／初診患者数）×100

※2 逆紹介率＝（逆紹介患者数／初診患者数）×100

年度評価 結果推移	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
	A	A	A	

実績	<p>地域医療支援病院として、地域の保健・医療・福祉情報の把握と支援を行い、地域医療を支援した。また、地域の医療機関との関係を深めるため、症例検討会等や勉強会を定期的に開催し地域医療ネットワークの確立にも努めた。このような中、紹介率・逆紹介率ともに上昇していたが、中期目標期間後半は、新型コロナの影響で、受診・入院患者数について減少が続いたものの、目標値はクリアした。</p> <p>地域の医療機関への訪問や集合形式の研修会開催等により、顔の見える関係づくりの構築に努めたが、コロナによりこれらの開催が困難な状況であっても、オンライン形式によるカンファレンス、会議、連携研修会の開催や広報誌の発刊などを積極的に取り入れ、関係を維持した。</p> <p>コロナ禍においては、岡山大学を中心に県下の病院、岡山県や保健所とwebにて定期的に情報交換を行う会議に参加しコロナ対応の連携に努めた。</p> <p>脳卒中、大腿骨頸部骨折や心不全等について、地域連携クリティカルパスを運用し、円滑なりハビリや地域生活への移行に繋いだ。がんの分野では、岡山県がん診療連携協議会の各会、部会で拠点病院と連携を深め、キャンサーボードを定期的に開催した。</p> <p>また、医療ネットワーク岡山（晴れやかネット）を活用して空床情報を共有し、カルナコネク（紹介患者のオンライン予約や予約状況の照会を行える患者受診予約システム）の普及にも努めた。カルナコネクについては、コロナの影響があったものの一定数の予約件数は維持した。</p>																																	
	<p>【実績値】市民病院</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>平成 30 年度 実績</th> <th>令和 元年度 実績</th> <th>令和 2 年度 実績</th> <th>令和 3 年度 実績</th> <th>平成 28 年度 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介患者予約件数</td> <td>7,066 件</td> <td>7,609 件</td> <td>5,991 件</td> <td>6,625 件</td> <td>5,879 件</td> </tr> <tr> <td>うちカルナコネク による予約（紹介患者 受診予約システム）</td> <td>1,704 件</td> <td>1,902 件</td> <td>1,584 件</td> <td>1,836 件</td> <td>1,397 件</td> </tr> </tbody> </table> <p>（関連指標）【晴れやかネット開示件数】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>平成 30 年度 実績</th> <th>令和 元年度 実績</th> <th>令和 2 年度 実績</th> <th>令和 3 年度 実績</th> <th>平成 28 年度 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>晴れやかネット開示件数</td> <td>149 件</td> <td>153 件</td> <td>199 件</td> <td>177 件</td> <td>153 件</td> </tr> </tbody> </table>					項目	平成 30 年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2 年度 実績	令和 3 年度 実績	平成 28 年度 実績	紹介患者予約件数	7,066 件	7,609 件	5,991 件	6,625 件	5,879 件	うちカルナコネク による予約（紹介患者 受診予約システム）	1,704 件	1,902 件	1,584 件	1,836 件	1,397 件	項目	平成 30 年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2 年度 実績	令和 3 年度 実績	平成 28 年度 実績	晴れやかネット開示件数	149 件	153 件	199 件	177 件
項目	平成 30 年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2 年度 実績	令和 3 年度 実績	平成 28 年度 実績																													
紹介患者予約件数	7,066 件	7,609 件	5,991 件	6,625 件	5,879 件																													
うちカルナコネク による予約（紹介患者 受診予約システム）	1,704 件	1,902 件	1,584 件	1,836 件	1,397 件																													
項目	平成 30 年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2 年度 実績	令和 3 年度 実績	平成 28 年度 実績																													
晴れやかネット開示件数	149 件	153 件	199 件	177 件	153 件																													

(2) 在宅医療を含む地域医療への支援

中期目標	ア 地域医療支援病院として高度医療機器等の共同利用や開放病床の利用を促進するなど地域の医療機関を支援し、在宅医療の推進に向けた取組を実施すること。
------	---

中期計画	<p>ア 在宅医療については、患者やその家族の意向を尊重しながら、疾病を抱えていても在宅で生活を送れるよう、地域の保健医療福祉関係機関と連携体制を構築し、切れ目のない医療を提供するとともに、緊急時には入院が受け入れられる体制を強化する。</p> <p>また、地域医療支援病院として引き続き地域の医療機関に対する開放病床や検査機器等の共同利用を促進する。</p>
------	--

目標指標の推移

【市民病院】

項目	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	第2期中期計画目標	平成28年度実績
在宅復帰率	91.2%	91.2%	89.2%	88.4%	80.0%	91.7%
退院前カンファレンスの開催	781件	742件	173件	99件	700件	652件

年度評価 結果推移	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	B	B	B	
平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度						
B	B	B							

実績	<p>ア 地域の多種職連携会議への継続的な参加や、地域の医療機関への病診連携研修会・キャンサーボード等の案内により、顔の見える関係づくりを継続し、退院支援相談等の強化により、在宅医療を推進した。在宅復帰率は、常に目標値を上回っている。</p> <p>中期目標期間の後半は、新型コロナウイルスの影響で、退院前カンファレンス等の開催件数は減少したが、オンライン形式による退院前カンファレンスの開催環境も整え、現場への利用促進を進めた。地域及び患者・家族のニーズと感染拡大予防とのバランスを考慮しながらの調整が続いている。</p> <p>地域の医療機関向けの広報で、高度医療機器の共同利用や開放病床の活用を促進した。</p> <p>【実績値】</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="2">項目</th> <th>平成30年度実績</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和2年度実績</th> <th>令和3年度実績</th> <th>平成28年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">医療機器共同利用件数</td> <td>CT</td> <td>490件</td> <td>540件</td> <td>393件</td> <td>422件</td> <td>374件</td> </tr> <tr> <td>MRI</td> <td>682件</td> <td>673件</td> <td>525件</td> <td>720件</td> <td>578件</td> </tr> </tbody> </table> <p>【市民病院】</p>	項目		平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	平成28年度実績	医療機器共同利用件数	CT	490件	540件	393件	422件	374件	MRI	682件	673件	525件	720件	578件
項目		平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	平成28年度実績															
医療機器共同利用件数	CT	490件	540件	393件	422件	374件															
	MRI	682件	673件	525件	720件	578件															

項目	平成 30年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2年度 実績	令和 3年度 実績	平成 28年度 実績
地域医療機関等の参加する 講演会開催数	24回	15回	11回	8回	25回
(内訳)					
講演会	平成 30年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2年度 実績	令和 3年度 実績	平成 28年度 実績
市民病院主催	17回	9回	9回	5回	17回
3S会(※)	3回	3回	2回	3回	3回
救急症例検討会	4回	3回	0回	0回	5回
計	24回	15回	11回	8回	25回
※診療機関と市民病院による市民のための研究会					

中期目標	イ 医師の偏在等による医師不足が深刻な地域の医療機関へ医師を派遣するなど人的支援に努めること。また、自治体病院間の連携において、中心的な役割を果たし、地域医療を支えること。
------	--

中期計画	イ 医師の偏在等による医師不足が深刻な地域の医療機関へ医師を派遣するなど人的支援に努める。また、自治体病院間の連携において、地域医療を担う医師の教育や地域定着への貢献に努めることにより地域医療を支える。
------	---

年度評価 結果推移	<table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>令和元年度</td> <td>令和 2 年度</td> <td>令和 3 年度</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">A</td> <td></td> </tr> </table>	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	A	A	A	
平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度						
A	A	A							

実績	<p>イ 新型コロナ拡大の状況を注視しながらも、地域医療に貢献するため、医師不足が深刻な地域の医療機関に人的支援をした。また、岡山県自治体病院協議会の事務局（院長が会長）として、自治体病院間の連携において、中心的な役割を果たした。</p> <p>若い医師（研修医）を中心に派遣し、将来の地域医療を担う医師の人材育成にも努めた。</p> <p>【医師派遣先】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>平成 30 年度 実績</th> <th>令和 元年度 実績</th> <th>令和 2 年度 実績</th> <th>令和 3 年度 実績</th> <th>平成 28 年度 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>美作市立大原病院</td> <td>毎週土曜日 1人</td> <td>毎週土曜日 日当直 1人</td> <td>毎週土曜日 日当直 1人</td> <td>毎週土曜日 日当直 1人</td> <td>毎週土曜日 1人</td> </tr> <tr> <td>湯原温泉病院</td> <td>毎週木曜日 1人</td> <td>毎週木曜日 1人</td> <td>毎週木曜日 1人</td> <td>毎週木曜日 1人</td> <td>毎週木曜日 1人</td> </tr> <tr> <td>倉敷市立市民病院 (旧称：児島市民病院)</td> <td>毎週月曜日 午前 1人 午後 1人 毎週水曜日 午前 1人 第 1 土曜日 日当直 1人</td> <td>毎週月曜日 午前 1人 午後 1人 毎週水曜日 午前 1人</td> <td>毎週月曜日 午前 1人 午後 1人 毎週水曜日 午前 1人</td> <td>毎週月曜日 午前 1人 午後 1人 毎週水曜日 午前 1人</td> <td>毎週月曜日 日中通し 1人 午前のみ 1人 午後のみ 1人 毎週水曜日 1人</td> </tr> <tr> <td>瀬戸内市民病院</td> <td>第 1 土曜日 当直 1人 第 3 土曜日 当直 1人</td> <td>派遣要請 なし</td> <td>派遣要請 なし</td> <td>派遣要請 なし</td> <td>第 3 土曜日 1人</td> </tr> <tr> <td>福渡病院</td> <td>毎週木曜日 1人 第 2・4 土曜日 日当直 各 1人 第 2 土曜日 1人</td> <td>第 3 月曜日 1人 第 2・4 木曜日 1人 第 1・2・4 土曜日 日当直各 1 人</td> <td>第 3 月曜日 1人 第 2・4 木曜日 1人 第 1・2・4 土曜日 日当直各 1 人</td> <td>第 1・3・5 月曜日 1人 毎週火曜日 午前 1人 毎週木曜日 午前 1人 毎週金曜日 午前 1人 午後 1人 第 1 土曜日 午前 1人 第 1・2・4</td> <td>第 3 火曜日 1人 第 2・4 土曜日 各 1人</td> </tr> </tbody> </table>	病院名	平成 30 年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2 年度 実績	令和 3 年度 実績	平成 28 年度 実績	美作市立大原病院	毎週土曜日 1人	毎週土曜日 日当直 1人	毎週土曜日 日当直 1人	毎週土曜日 日当直 1人	毎週土曜日 1人	湯原温泉病院	毎週木曜日 1人	毎週木曜日 1人	毎週木曜日 1人	毎週木曜日 1人	毎週木曜日 1人	倉敷市立市民病院 (旧称：児島市民病院)	毎週月曜日 午前 1人 午後 1人 毎週水曜日 午前 1人 第 1 土曜日 日当直 1人	毎週月曜日 午前 1人 午後 1人 毎週水曜日 午前 1人	毎週月曜日 午前 1人 午後 1人 毎週水曜日 午前 1人	毎週月曜日 午前 1人 午後 1人 毎週水曜日 午前 1人	毎週月曜日 日中通し 1人 午前のみ 1人 午後のみ 1人 毎週水曜日 1人	瀬戸内市民病院	第 1 土曜日 当直 1人 第 3 土曜日 当直 1人	派遣要請 なし	派遣要請 なし	派遣要請 なし	第 3 土曜日 1人	福渡病院	毎週木曜日 1人 第 2・4 土曜日 日当直 各 1人 第 2 土曜日 1人	第 3 月曜日 1人 第 2・4 木曜日 1人 第 1・2・4 土曜日 日当直各 1 人	第 3 月曜日 1人 第 2・4 木曜日 1人 第 1・2・4 土曜日 日当直各 1 人	第 1・3・5 月曜日 1人 毎週火曜日 午前 1人 毎週木曜日 午前 1人 毎週金曜日 午前 1人 午後 1人 第 1 土曜日 午前 1人 第 1・2・4	第 3 火曜日 1人 第 2・4 土曜日 各 1人
病院名	平成 30 年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2 年度 実績	令和 3 年度 実績	平成 28 年度 実績																																
美作市立大原病院	毎週土曜日 1人	毎週土曜日 日当直 1人	毎週土曜日 日当直 1人	毎週土曜日 日当直 1人	毎週土曜日 1人																																
湯原温泉病院	毎週木曜日 1人	毎週木曜日 1人	毎週木曜日 1人	毎週木曜日 1人	毎週木曜日 1人																																
倉敷市立市民病院 (旧称：児島市民病院)	毎週月曜日 午前 1人 午後 1人 毎週水曜日 午前 1人 第 1 土曜日 日当直 1人	毎週月曜日 午前 1人 午後 1人 毎週水曜日 午前 1人	毎週月曜日 午前 1人 午後 1人 毎週水曜日 午前 1人	毎週月曜日 午前 1人 午後 1人 毎週水曜日 午前 1人	毎週月曜日 日中通し 1人 午前のみ 1人 午後のみ 1人 毎週水曜日 1人																																
瀬戸内市民病院	第 1 土曜日 当直 1人 第 3 土曜日 当直 1人	派遣要請 なし	派遣要請 なし	派遣要請 なし	第 3 土曜日 1人																																
福渡病院	毎週木曜日 1人 第 2・4 土曜日 日当直 各 1人 第 2 土曜日 1人	第 3 月曜日 1人 第 2・4 木曜日 1人 第 1・2・4 土曜日 日当直各 1 人	第 3 月曜日 1人 第 2・4 木曜日 1人 第 1・2・4 土曜日 日当直各 1 人	第 1・3・5 月曜日 1人 毎週火曜日 午前 1人 毎週木曜日 午前 1人 毎週金曜日 午前 1人 午後 1人 第 1 土曜日 午前 1人 第 1・2・4	第 3 火曜日 1人 第 2・4 土曜日 各 1人																																

					土曜日 日当直各 1人	
	玉野市民病院	毎週火曜日 1人 毎週月・ 火・水曜日 当直1人 毎週水曜日 午後1人	毎週月曜日 1人 毎週火曜日 勤務・当直 各1人 第1・3水曜日 午前1人 毎週水曜日 勤務(午 前)・当直 各1人	毎週月曜日 1人 毎週火曜日 勤務・当直 各1人 第1・3水曜日 午前1人 毎週水曜日 勤務(午 前)2人 当直1人	毎週月曜日 1人 毎週火曜日 勤務・当直 各1人 毎週水曜日 勤務(午 前) 3人 当直1人	毎週火曜日 1人
	矢掛病院※	毎週月・金曜日 午後1人	毎週月・金曜日 午後1人	毎週月・水・金曜日 午後1人	毎週月・水・金曜日 午後1人	
※矢掛病院は、平成30年度から派遣開始。						

5 教育及び人材育成

中期目標	<p>地域医療を担う医師等の安定的・継続的確保に貢献するため、岡山地域において医師等の教育機関である岡山大学と共同し、救急専門医や総合診療医の育成を目的とした連携大学院等を活用した教育・人材育成の強化を図ること。</p> <p>また、研修医を積極的に受け入れるとともに、医学生をはじめとする研修生・実習生に対する教育の充実など、医療従事者の育成に努めること。</p>
------	---

中期計画	<p>院内外からの医師に対する教育及び人材育成の質の向上のため、卒後臨床教育研修センターをより一層充実させ、必要な医師のリクルートや専門医研修に関する業務を集中管理する。加えて、岡山大学と共同し、市民病院を臨床研究の場とする連携大学院での総合診療医や救急医の育成等地域医療を担う人材の安定的・継続的確保に貢献する。</p> <p>また、平成29年10月から市民病院内で運用を開始した人材開発センターを本格的に稼働させ、新人採用から管理職までキャリア別のプログラムにより、職員の教育及び人材育成に関わる業務について一元管理のもと、知識・技術、マネジメント能力、組織人としての能力向上を目指した教育研修体制を整備する。</p> <p>さらに、研修医や医学生に対して日常の診療カンファレンスとは別に研修会を実施するとともに、看護師や救命救急士、学生等の実習生を積極的に受け入れる。</p>
------	---

目標指標の推移

【市民病院】

項目	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	第2期中期計画目標	平成28年度実績
大学の研修医・医学生の研修受入要請に対する応需率	100%	100%	100%	100%	100%	100%
研修医・医学生への研修会実施回数	30回	12回	12回	9回	12回	30回
研修医が参加するカンファレンスの回数	103回	91回	44回	63回	80回	—

年度評価 結果推移	<table border="1"> <thead> <tr> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>A</td> <td>A</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	A	A	A	
平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度						
A	A	A							

実績	<p>研修医の受入れは、中期目標期間中を通じて100%（目標値：100%）対応した。研修医・医学生への研修会実施回数や、研修医の参加するカンファレンスについては、新型コロナ蔓延の中でも実施した。卒後研修センターにおいて、研修医の意見を取り入れるなど一</p>
----	---

層の充実を図り、院長から直接指示ができる体制とした。岡山県の研修医定員が大幅に制限される中、定員10名を確保し研修体制を堅持した。

救急救命士の実習については、依頼された実習を100%受け入れ、救命救急士のスキルアップに貢献した。

連携大学院制度においても大学病院との連携を深め、実践総合診療学講座、実践救命救急・災害医学講座・実践地域総合外科学講座を維持し、引き続き救急医療現場での人材育成体制を強化した。

指導医教育にも取り組み、臨床研修指導医は退職等の異動はあったが常に目標値は超えており、令和3年度末には52名であった。

組織体制として整備した人材開発センター（令和3年度からは人材開発室が事業引継ぎ）では、新人採用から管理職まで階層別にキャリアに応じたプログラムを計画し、研修を実施した。また、研修後に振り返りの評価も行い、翌年度以降に反映させる運用を開始した。

6 保健・医療・福祉連携への貢献

(1) 保健医療福祉行政への協力

中期目標	<p>市民病院内に市が設置している保健・医療・福祉連携に係る総合相談窓口である地域ケア総合推進センターと密接に連携し、患者の退院後の生活支援や市民からの医療に係る専門的な相談に対する支援などの役割を担うこと。</p> <p>また、市の保健医療福祉部門との情報交換などにより連携を推進すること。</p>
------	--

中期計画	<p>市民病院内に市が設置している地域ケア総合推進センターと密接に連携し、共催で多職種研修会を開催する。加えて、地域における医療、介護の専門職の人材育成への協力、市民との意見交換会の開催を継続していく。</p> <p>また、退院調整における困難事例については、地域ケア総合推進センターと協働し、多職種間で情報を共有しながら支援していく。</p>
------	--

年度評価 結果推移	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">平成 30 年度</td> <td style="text-align: center;">令和元年度</td> <td style="text-align: center;">令和 2 年度</td> <td style="text-align: center;">令和 3 年度</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">C</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td></td> </tr> </table>	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	B	C	B	
平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度						
B	C	B							

実績	<p>地域ケア総合推進センターとの会議を定例化（隔月開催）し、市民向け及び地域医療連携関係者に対する協働企画の実施や、個々のケースに関する情報共有など、新型コロナ感染状況を考慮しながらも密接な連携を図ることができた。事業の企画・実施や個々のケースについて必要な相談・連携が迅速かつ円滑にできるよう、隔月の定例会議以外にも適宜打ち合わせを行った。</p> <p>【実績値】</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>平成 30 年度 実績</th> <th>令和 元年度 実績</th> <th>令和 2 年度 実績</th> <th>令和 3 年度 実績</th> <th>平成 28 年度 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地域ケア総合推進センターと入退院管理支援センターで実施するカンファレンス※</td> <td style="text-align: center;">5 回</td> <td style="text-align: center;">5 回</td> <td style="text-align: center;">7 回</td> <td style="text-align: center;">10 回</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </tbody> </table> <p>※平成 28 年度は集計していない。</p> <p>【保健医療福祉関係団体等との連携会議】</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>会議名</th> <th>平成 30 年度 実績</th> <th>令和 元年度 実績</th> <th>令和 2 年度 実績</th> <th>令和 3 年度 実績</th> <th>平成 28 年度 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>岡山市北区中央地域コアメンバー会議※</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">6 回</td> </tr> </tbody> </table>	項目	平成 30 年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2 年度 実績	令和 3 年度 実績	平成 28 年度 実績	地域ケア総合推進センターと入退院管理支援センターで実施するカンファレンス※	5 回	5 回	7 回	10 回	—	会議名	平成 30 年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2 年度 実績	令和 3 年度 実績	平成 28 年度 実績	岡山市北区中央地域コアメンバー会議※	—	—	—	—	6 回
項目	平成 30 年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2 年度 実績	令和 3 年度 実績	平成 28 年度 実績																				
地域ケア総合推進センターと入退院管理支援センターで実施するカンファレンス※	5 回	5 回	7 回	10 回	—																				
会議名	平成 30 年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2 年度 実績	令和 3 年度 実績	平成 28 年度 実績																				
岡山市北区中央地域コアメンバー会議※	—	—	—	—	6 回																				

	岡山市北区中央コア会議※	3回	2回	12回	3回	—
	北児島ケアネット	4回	2回	0回	0回	4回
	北長瀬カフェ	12回	10回	0回	0回	6回
<p>※市が主催の北区中央地域保健医療福祉連携懇話会等は、平成30年度から地域の自主的な取組に移行しており、北区地域で自主的に開催された多種職連携会議（岡山市北区中央コア会議）に引き続き参加した。</p>						

(2) 疾病予防の取組

中期目標	市民に対する健康支援講座の開催や健康支援に係る相談など、引き続き市民の疾病予防に向けて取り組むこと。
------	--

中期計画	市民の健康を守るため、市民に対して健康支援講座を定期的で開催するとともに、健康支援に係る相談に応じるなど引き続き市民の疾病予防に向けて取り組む。
------	--

年度評価 結果推移	<table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <th>平成 30 年度</th> <th>令和元年度</th> <th>令和 2 年度</th> <th>令和 3 年度</th> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td></td> </tr> </table>	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	B	B	B	
平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度						
B	B	B							

実績	<p>市民公開講座について、管理栄養士による食事指導と試食会、リハビリスタッフによる運動療法の実践紹介等、多職種スタッフによる体験型の健康支援講座を中期目標期間前半は開催したが、後半は新型コロナの影響により、開催ができなかった。</p> <p>院外患者向けの定期刊行雑誌「岡山市立市民病院だより 北長瀬の風」への記事の掲載を継続し、疾病予防や検査の重要性等の情報を発信した。</p> <p>また、ソーシャルメディアを用いた健康情報の発信等、市民への後方活動の充実に努めた。</p> <p>【栄養管理委員会実施市民公開講座】</p> <table border="1" style="margin: auto;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>平成 30 年度 実績</th> <th>令和 元年度 実績</th> <th>令和 2 年度 実績</th> <th>令和 3 年度 実績</th> <th>平成 28 年度 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>栄養管理委員会で行う 市民公開講座実施回数</td> <td style="text-align: center;">2 回</td> <td style="text-align: center;">2 回</td> <td style="text-align: center;">0 回</td> <td style="text-align: center;">0 回</td> <td style="text-align: center;">2 回</td> </tr> </tbody> </table> <p>【市民公開講座参加者数】</p> <table border="1" style="margin: auto;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>平成 30 年度 実績</th> <th>令和 元年度 実績</th> <th>令和 2 年度 実績</th> <th>令和 3 年度 実績</th> <th>平成 28 年度 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者数</td> <td style="text-align: center;">109 名</td> <td style="text-align: center;">108 名</td> <td style="text-align: center;">0 名</td> <td style="text-align: center;">0 名</td> <td style="text-align: center;">83 名</td> </tr> </tbody> </table>	項目	平成 30 年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2 年度 実績	令和 3 年度 実績	平成 28 年度 実績	栄養管理委員会で行う 市民公開講座実施回数	2 回	2 回	0 回	0 回	2 回	項目	平成 30 年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2 年度 実績	令和 3 年度 実績	平成 28 年度 実績	参加者数	109 名	108 名	0 名	0 名	83 名
項目	平成 30 年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2 年度 実績	令和 3 年度 実績	平成 28 年度 実績																				
栄養管理委員会で行う 市民公開講座実施回数	2 回	2 回	0 回	0 回	2 回																				
項目	平成 30 年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2 年度 実績	令和 3 年度 実績	平成 28 年度 実績																				
参加者数	109 名	108 名	0 名	0 名	83 名																				

第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

1 業務運営体制の構築

(1) 業務運営体制の構築

中期目標	地方独立行政法人制度の特長をいかし、独立した経営体として、主体性をもって意思決定し、迅速に行動できるよう、理事会を中心とした体制を整備するとともに、職員が病院運営に対する意識の醸成を図るなど自律性を発揮できる効果的な運営体制の構築を図ること。
------	---

中期計画	<p>地方独立行政法人制度の特長をいかし構築された独立した経営体として、理事長による最高責任者としてのリーダーシップのもと、より一層迅速な意思決定と効率的な運営体制を強化する。それにより、医療情勢の変化や患者ニーズ、各病院の特性や実情に応じた機動性の高い業務改善を図る。加えて、役員による職務執行と内部統制のもと、業務の適正を確保するための体制を構築していく。</p> <p>また、市立総合医療センター全体としては、長期的な視点を踏まえ、柔軟かつ一体的な運営管理を行う。</p>
------	---

年度評価 結果推移	<table border="1"><thead><tr><th>平成30年度</th><th>令和元年度</th><th>令和2年度</th><th>令和3年度</th></tr></thead><tbody><tr><td>B</td><td>B</td><td>B</td><td></td></tr></tbody></table>	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	B	B	B	
平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度						
B	B	B							

実績	<p>理事長を中心とした法人の運営に関する意思決定のため、各病院幹部が集まり法人全体の経営戦略等を協議・検討する経営戦略会議や、経営に係るデータ分析・検証等を行う経営推進室を新設するなど組織改編を行なった。また、人事課と財務課を市民病院から本部へ移管して人材と資金を法人として一元管理できる体制とした。これらの本部機能強化により、法人全体の課題に組織的に対応できる体制となった。</p> <p>また、理事長が示す方向性や各病院の病床情報、幹部会議・経営戦略会議の開催報告を院内ポータルサイトに掲載し公開することで、病院経営ならびに運営に関し全職員への共有・周知を行なった。</p> <p>市民病院では、医療情勢の変化や患者ニーズの変化に横断的かつ効率的に対応するため、入退院管理支援センターを設立し、センター内に医事部門と地域連携部門をおき、患者に対するデータや対応を一元化した。それによって診療や入院・退院に関する業務の効率化を行い、患者・連携医療機関に対しての利便性を向上した。また、組織体制として整備した人材開発センター（令和3年度から人材開発室）では新人採用から管理職までキャリア別のプログラムを計画し、研修を実施した。さらに、課題にあわせて多職種で構成されたワーキング</p>
----	---

チームを構成し、機動的に業務改善を図ることができた。第2期中期目標期間中に発生した新型コロナに対しては、感染蔓延時及び収束後の病院運営を見据え、急性期医療に対応できる病棟再編・病床管理と重症対応看護師の育成をしながら通常診療との両立に努めた。

せのお病院では、平成30年5月に全病床（60床）を地域包括ケア病床に変更し、市民病院をはじめとする急性期病院からの患者受入れを強化しながら、訪問診療の開始や介護福祉士の増員、訪問リハビリテーションの開始準備を実施した。また、在宅や施設への復帰支援と在宅患者の軽度急性期疾患の受入れに努めた。

急性期病院である市民病院、地域医療の実践病院であるせのお病院のそれぞれで機能を明確化し、急性期から回復期までの医療が担えるよう法人全体で一体的な運営を実施した。

(2) 多様な人材の確保

中期目標	<p>医療提供体制の安定化を図り、医療水準を向上させるため、多様で優秀な人材の確保に努めること。</p> <p>ア 医師の人材確保 市立病院において提供する医療水準を向上させるため、優秀な医師の確保に努めるとともに、臨床研修医及び後期研修医を育成すること。</p> <p>イ 看護師及び医療技術職員の人材確保 関係教育機関等との連携を強化し、優れた看護師及び医療技術職員の確保に努めること。</p> <p>ウ 事務職員の人材確保及び育成強化 病院運営に関する専門知識や経営感覚が求められることから、必要な人材を確保・育成し、組織としての専門性を高めること。</p> <p>エ 育児支援等による人材確保 育児と業務の両立支援など多様な人材を活用できる体制を確保すること。</p>
------	--

中期計画	<p>医療提供体制の安定化を図り、医療水準を向上させるため、多様で優秀な人材の確保に努める。そのために、地方独立行政法人の特長をいかした職員採用を進め、優秀な人材を適宜確保する。加えて、法人が担うべき医療を提供するための人員を長期的に確保するため、職員の定着に努める。</p> <p>医療従事者については、大学等関係教育機関との連携や採用のための広報活動をこれまで以上に強化するとともに、初期臨床研修医の確保と育成に取り組む。さらに、新内科専門医制度の基幹病院として後期研修医の確保と育成に努める。</p> <p>事務職員については、病院経営に関する知識、経験を有する人材を計画的に採用するとともに、長期的な観点から新卒者の採用と育成に努める。</p> <p>また、育児支援や職場復帰に関わる制度など職員が働きやすく復帰しやすい環境を整える。</p>
------	---

年度評価 結果推移	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>令和元年度</td> <td>令和 2 年度</td> <td>令和 3 年度</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>A</td> <td>A</td> <td></td> </tr> </table>	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	A	A	A	
平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度						
A	A	A							

実績

初期研修医のマッチングについては、フルマッチを続けている。看護師については新型コロナ拡大の影響により、令和2年度は応募者数が減少したが、令和3年度は増加し、常時定員以上の応募があり安定した採用ができた。事務職員については、特に重要な医事職員を中心に民間経験者の採用試験、また、非正規の正規登用試験を実施した。その他の職種についても必要に応じた採用ができており、計画以上の人材確保となっている。

また、育児支援制度の活用についても女性職員の取得率100%を維持できているとともに、男性職員も育児休業を取得するなど活用された。

【採用者数】

項目	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	平成28年度実績
初期研修医マッチング	10名	12名	10名	10名	7名
後期研修医	10名	18名	14名	11名	9名
看護師	33名	29名	33名	40名	49名
医療技術員	7名	11名	9名	5名	21名
事務職員	2名	2名	8名	6名	3名
定年退職者の再雇用	7名	4名	7名	7名	4名

(3) 外部評価等の活用

<p>中期目標</p>	<p>病院機能評価等の評価項目に基づき業務運営の改善に努めるとともに、実効性の高い監査を実施し、監査結果に基づき必要な見直しを行うこと。</p>								
<p>中期計画</p>	<p>平成26年度に実施した公益財団法人日本医療機能評価機構の病院機能評価結果に基づき、本中期計画期間中実施する病院機能評価（せのお病院：平成30年度実施、市民病院：令和元年度実施）までに指摘箇所の改善完了に向けて取り組む。当該病院機能評価実施後は新たな指摘事項への業務運営改善に努める。</p> <p>業務部分、経営部分の評価、見直しについては、医療の質に関する客観的な指標の分析や外部の評価機関による評価結果の分析、活用により、継続的な医療の質向上を図るとともに、監事や会計監査人による監査結果等に従い、より一層の内部統制の強化を図る。</p>								
<p>年度評価 結果推移</p>	<table border="1" data-bbox="461 864 1374 972"> <tr> <td>平成30年度</td> <td>令和元年度</td> <td>令和2年度</td> <td>令和3年度</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>B</td> <td>B</td> <td></td> </tr> </table>	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	B	B	B	
平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度						
B	B	B							
<p>実績</p>	<p>公益財団法人日本医療機能評価機構の病院機能評価（せのお病院：平成30年度実施、市民病院：令和元年度実施）に特に大きな指摘もなく合格し、次回受審に向けて、マニュアルの見直しや業務改善を進めた。</p> <p>監事による業務監査において、諸規程、議事録、契約関係、訴訟・係争事件関係、各種ハラスメント・内部通報関係事案、役員・職員の非違行為・懲戒事案についての確認を受けて改善に努め、理事会での助言や必要に応じた顧問弁護士への相談等により、内部統制の強化と維持を図った。</p> <p>会計面においては、中期目標期間を通じて、監事や会計監査人による会計監査及び相談・助言等を受けた。なお、令和元年度をもって会計監査人による法定監査を受ける義務は終了したが、その後も監査法人による会計監査と相談、助言を受けることで、適切な会計処理と経営強化に努めた。</p>								

2 職員のやりがいと満足度の向上

(1) 研修制度の充実及び資格取得への支援

中期目標	医学の進歩による医療の高度化・専門化に対応して、常に高度かつ標準化した医療を提供できるよう、専門性及び医療技術の向上を図るため、医療スタッフの研修や資格取得支援等を充実すること。
------	---

中期計画	専門性の向上に向けた研修制度の充実に加えて、職員の資格取得を奨励する制度を充実する。また、臨床研修指導医、専門医、認定医、認定看護師及び認定薬剤師等の資格取得を促進するとともに資格保持者の資格維持のための支援体制を整え、質の高い医療の提供体制を構築する。さらに、新内科専門医制度の開始に伴い、基幹病院としての体制を充実させる。
------	---

目標指標の推移

項目	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	第2期中期計画目標	平成28年度実績
臨床研修指導医数	53人	51人	51人	52人	40人	48人
《関連指標》						
項目	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	平成28年度実績	
臨床研修指導医割合	67.1%	65.8%	66.2%	62.6%	70.5%	
専門医	142人	144人	161人	163人	123人	
認定医	66人	65人	101人	104人	61人	
認定看護師数	9分野 12人	11分野 15人	11分野 15人	11分野 15人	9分野 12人	
認定薬剤師数	8人	8人	8人	14人	5人	

年度評価 結果推移	<table border="1"> <thead> <tr> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>A</td> <td>A</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	A	A	A	
平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度						
A	A	A							

実績	<p>臨床研修指導医数は安定して目標を上回っており、看護師特定行為研修については令和3年度に市民病院内にセンターを開設し、院内で研修が可能となり、令和3年度の研修修了者は3名となった。認定看護師についても奨学金制度の新設などにより着実に増加した。</p> <p>また、新専門医制度が開始された中で内科専門研修プログラムでの専攻医も安定して確保できており、専門医の充実も図られた。内科専門研修で必須となっている内科救急講習会（JMECC）についても毎年継続的に開催ができており、内科専門研修プログラム基幹病院としての役割を十分に果たすことができた。</p>
----	---

(2) 適正な人事評価制度

中期目標	医療組織に適した職員の業績や能力、経験や職責などを反映した公正かつ適正な人事評価により職員のモチベーションを高めるように努めること。								
中期計画	<p>平成28年10月から導入した新人事評価制度により、目標に対する成果を評価する業績評価、職務行動を評価する能力評価を引き続き実施し、職員の能力開発と人材育成を図っていく。また、評価者と被評価者が面談を行うことで法人の方向性を職員に伝達し、職員自らの組織内での役割を再確認させることで組織の活性化を図る。</p> <p>本中期計画期間においては、この制度を適切に運用していくとともに、実施した上での問題点や課題を抽出し、適宜見直しを行う。</p>								
年度評価 結果推移	<table border="1"><thead><tr><th>平成30年度</th><th>令和元年度</th><th>令和2年度</th><th>令和3年度</th></tr></thead><tbody><tr><td>B</td><td>B</td><td>B</td><td></td></tr></tbody></table>	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	B	B	B	
平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度						
B	B	B							
実績	医療組織に即した新人事評価制度の浸透を図るため、職務行動を評価する能力評価に特化して行った。その結果として職員の理解も深まり新人事評価制度への移行がスムーズにできた。運用方法については精査し、効率的に制度が運用されるようマニュアル・様式の改定等を行った。								

(3) 職場環境の整備

中期目標	職員のワークライフバランスや職場の安全確保、コミュニケーションの活性化などを通じて職場環境の改善を図り、働きやすく働きがいのある病院づくりに努めること。
------	--

中期計画	<p>職員が業務に専念できる職場環境の整備に向けて、働き方改革、院内保育のさらなる充実等職員満足度の向上を目指す。</p> <p>働き方改革として、業務体制の調査、見直しを行い、作業量削減に向けてタスクシフト等の仕組みを検討し、より効率的な体制への改善を図る。特に医師については、当直体制や過重労働等を中心に問題点を抽出し改善に努める。看護職員については、夜勤回数の増大を防ぐための体制を構築し、全看護職員の負担軽減ができるような協力体制を整備する。</p> <p>院内保育については、保育児童数が大幅に増加していることを踏まえ、万一定員超えになった場合にも対応できるような保育体制を実現させる。さらに、夜間保育についても需要に合わせて実施するなど、育児休業からの早期復帰をサポートしていく。</p>
------	--

年度評価 結果推移	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>令和元年度</td> <td>令和 2 年度</td> <td>令和 3 年度</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td></td> </tr> </table>	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	B	B	B	
平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度						
B	B	B							

実績	<p>医師については勤務時間の短縮や宿日直体制の整備を行い、働き方改革に向けた体制を整えた。令和元年度に専従の衛生管理者を配置した安全衛生管理室を設立し、職員の安全衛生やハラスメント対策を強化した。看護師の夜勤の平準化についても子育て世代の夜勤可能な職員への協力を求めるなど協力体制を強化するなど、計画を順調に実施した。</p> <p>院内保育園の児童数は、平成30年度まで増加傾向にあったものの、家庭で保育する産休・育休職員の増加や認可保育園への転園等により、令和元年度からは減少傾向となり、令和3年度は、月平均の院内保育児童数は12.4名となった。一方で、一時保育の利用は増加しており、職員が業務に専念できるよう、委託業者と協力して柔軟な利用が可能となるよう要望に応えた。</p> <p>【関連指標】(月平均人数)</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>平成 30 年度 実績値</th> <th>令和 元年度 実績値</th> <th>令和 2 年度 実績値</th> <th>令和 3 年度 実績値</th> <th>平成 28 年度 実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>院内保育児童数 (月極定員 30 人)</td> <td>26.3 人</td> <td>23.0 人</td> <td>15.6 人</td> <td>12.4 人</td> <td>22.4 人</td> </tr> <tr> <td>一時保育児童数</td> <td>13.7 人</td> <td>5.8 人</td> <td>24.5 人</td> <td>24.2 人</td> <td>11.4 人</td> </tr> </tbody> </table>	項目	平成 30 年度 実績値	令和 元年度 実績値	令和 2 年度 実績値	令和 3 年度 実績値	平成 28 年度 実績値	院内保育児童数 (月極定員 30 人)	26.3 人	23.0 人	15.6 人	12.4 人	22.4 人	一時保育児童数	13.7 人	5.8 人	24.5 人	24.2 人	11.4 人
項目	平成 30 年度 実績値	令和 元年度 実績値	令和 2 年度 実績値	令和 3 年度 実績値	平成 28 年度 実績値														
院内保育児童数 (月極定員 30 人)	26.3 人	23.0 人	15.6 人	12.4 人	22.4 人														
一時保育児童数	13.7 人	5.8 人	24.5 人	24.2 人	11.4 人														

【平均利用者数（1日当たり人数）】

区分	平成30年度実績		令和元年度実績		令和2年度実績		令和3年度実績		平成28年度実績	
	平日	土日祝	平日	土日祝	平日	土日祝	平日	土日祝	平日	土日祝
院内保育	22.7	2.2	21.2	0.2	14.0	0.3	10.7	2.2	20.2	3.7
病児保育	0.4	—	0.4	—	0.2	—	0.1	—	—	—
夜間保育	0	—	0	—	0	—	0	—	—	—

※病児保育は平成30年7月23日から開始（平日のみ）。

※夜間保育は平成31年3月1日から開始（金曜日のみ）。

第3 財務内容の改善に関する事項

1 持続可能な経営基盤の確立

中期目標	<p>経営の効率化や健全化に向けた取組をさらに進め、中期目標期間中の経常収支の黒字を達成するとともに、市立病院の役割を果たせる持続可能な経営基盤を確立すること。</p> <p>特に、施設の改築更新、医療機器の導入・更新等ハード面の整備については、中長期的な視点で計画的に実施すること。</p> <p>なお、救急、感染症など公的に必要とされる医療を安定的に提供していくため、地方独立行政法人の性質上能率的な経営を行ってもなおその事業の経営に伴う収入のみをもって充てることが客観的に困難であると認められる経費等については、市の一般会計から運営費負担金として支出することとするが、これについては、市民に分かりやすいように内訳や考え方を明らかにした上で適切に中期計画へ反映すること。</p>
------	---

中期計画	<p>市民病院としての役割を果たすとともに、増収対策及び費用の合理化により、安定した経営基盤を確立し、より自立した経営を目指す。</p> <p>医療を取り巻く環境の変化に迅速に対応できるよう、適時、経営分析を進めるとともに、地方独立行政法人の特長をいかし、社会情勢の変化に機敏に対応した病院経営を行うことにより、安定的な経常収支の黒字化を目指すとともに、資金収支の維持を図る。</p>
------	--

目標指標の推移

岡山市立総合医療センター

項目	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	第2期中期計画目標	平成28年度実績
経常収支比率	98.9%	100.1%	107.7%	108.2%	100.9%	97.9%

年度評価 結果推移	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	B	B	B	

実績

中期目標期間前半は順調に経営改善を行ってきたが、後半は、新型コロナの影響が大きく、計画通りの患者数、医業収益を確保できなかった。しかしコロナ関連の補助金の交付により黒字を計上したことから、中期目標期間を通じて経常収支比率は目標を達成することができた。中期目標期間中に総合入院体制加算2を取得するため、悪性腫瘍手術件数及び化学療法件数の増加を目指したが、新型コロナの影響もあり、達成できなかった。

新型コロナの蔓延によって、医療を取り巻く環境が大きく変化したが、医療機器の充実及び人材教育を行い、通常診療と新型コロナ患者の受入れを両立させながら市立病院の役割を果たせるよう努めた。

【市民病院】

項目	平成 30年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2年度 実績	令和 3年度 実績	平成 28年度 実績
新入院患者数	9,536名	10,147名	8,135名	8,187名	9,066名
入院・外来手術 料合計（麻酔関 連を除く）	1,647,777 千円	1,690,127 千円	1,453,416 千円	1,554,046 千円	1,465,803 千円

2 収入の確保及び費用の節減

中期目標	効率的な病床利用や高度医療機器の稼働率向上に努め、社会情勢の変化や医療保険制度の変革への的確な対応などにより収入を確保するとともに、給与費比率の適正化や診療材料などの調達コストの削減など、費用の節減及び合理化を図ること。
------	--

中期計画	<p>各部門が収益目標を持ち、目標達成のための取組の進捗状況を管理・評価する目標管理制度の導入、DPCによる診療情報の分析等経営管理手法の積極的な活用により、適正な収益の確保を図る。</p> <p>また、病棟ごとの病床稼働率や平均在院日数の適正水準の維持を前提に、適正なコストでの運営に向け、給与費比率の適正化に努めるとともに、診療材料などの調達方法において新たな仕組みを確立するなどの改善により、費用の節減及び合理化を図る。</p>
------	---

目標指標の推移

【市民病院】

項目	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	第2期中期計画目標	平成28年度実績
病床稼働率 ※1	98.1%	96.9%	73.7% (79.0%)	76.6% (84.7%)	94.6%	88.6%
平均在院日数	13.6日	13.0日	12.0日	12.7日	12.7日	12.9日
経常収支比率 ※2	99.4%	100.9%	108.6%	107.5%	101.2%	97.8%
医業収支比率	92.6%	94.6%	86.8%	91.3%	98.0%	89.6%
給与費比率 ※2	56.8%	54.7%	61.5%	57.5%	54.8%	57.9%

【せのお病院】

項目	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	第2期中期計画目標	平成28年度実績
病床稼働率 ※1	一般病床 ※3	—	—	—	94.0%	67.3%
	地域包括ケア病床	83.0%	88.5%	86.6%	94.0%	72.9%
平均在院日数	一般病床 ※3	—	—	—	17.0日	17.7日
在院日数	地域包括ケア病床	30.7日	34.8日	36.7日	60.0日 以内※4	29.7日
経常収支比率	104.8%	111.4%	115.7%	118.2%	110.8%	111.0%
医業収支比率	80.1%	87.3%	90.6%	92.0%	86.0%	83.7%
給与費比率	86.0%	78.7%	75.4%	73.2%	76.3%	83.4%

※1 病床稼働率＝(在院患者延べ数＋退院患者数)×100／(届出病床数×日数) 在院患者延べ数とは24時現在に入院中の患者の延べ数

- 病床稼働率欄の（）内は、新型コロナ対応病床（感染対策工事による休床分を含む）を除いて計算。
- ※2 法人本部に係る費用（一般管理費）を除く。なお、令和元年度から人事課及び財務課が、市民病院から法人本部へ所管替えとなっている。
- ※3 せのお病院の一般病床は、平成30年5月から全て地域包括ケア病床に転換している。
- ※4 地域包括ケア病床に求められる診療報酬の施設基準とする。（平成29年度時点の基準は60日以内）

年度評価 結果推移	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	C	B	B	

実績	<p>病床稼働率は、中期目標期間前半は順調に進んだが、令和元年度末からの新型コロナの影響によって後半は計画どおりに進まなかった。特に市民病院では中期目標期間後半は新型コロナの重点医療機関として積極的に新型コロナ患者を受け入れたことによる病床制限のため、病床稼働率が低下し、その結果として入院収益は減少したが、新型コロナと通常診療の両立を図るために医療機器の投入や人材の教育に力を入れたことで徐々に改善傾向が見られた。</p> <p>外来収益については令和2年度には大幅に低下したものの、令和3年度には単価の上昇もあり、収益としてはコロナ前の水準以上となった。</p> <p>給与費比率については、中期目標期間後半は医業収益の低下と新型コロナ関連の手当や人員増による費用の増加のため達成することができなかった。</p> <p>材料費についても変動費であり、中期目標期間後半については病床稼働率の低下により減少しているものの、高額薬剤の購入増加、新型コロナや原油高等の社会情勢の変化により材料価格が高騰し、材料費比率が悪化したため、医業収支比率の低下の要因となった。</p> <p>支払いが困難な患者に対して、早期に限度額認定証、貸付制度、生活保護などの説明及び代行手続きを行い、患者負担を最小限にすることで、未収金の発生を未然に防止した。</p> <p>発生した未収金については、患者及び連帯保証人や家族などに対し定期的な催促を行った。悪質な未収金患者に対しては、平成28年度から行っている弁護士による債権回収委託を活用し、回収を行った。委託した弁護士から回収不能として返還された債権について内容を精査し、中期目標期間中に計61名（8名は連帯保証人）に対して訴訟手続き（支払督促）を行い、15名は完納となった。</p>
----	--

第4 その他業務運営に関する重要事項

1 健康・医療・福祉を核としたまちづくりへの貢献

中期目標	市民病院の隣接地に導入予定の健康・医療・福祉系施設と協力し、市の推進する健康・医療・福祉を核としたまちづくりへ貢献すること。								
中期計画	市民病院の隣接地に導入予定の健康・医療・福祉系施設において、市民への健康講座の開催や、当該施設の機能が市民の健康維持・向上につながる効果的なものとなるよう施設事業者等との連携を図るなど、市の推進する健康・医療・福祉を核としたまちづくりへ貢献する。								
年度評価 結果推移	<table border="1"><thead><tr><th>平成30年度</th><th>令和元年度</th><th>令和2年度</th><th>令和3年度</th></tr></thead><tbody><tr><td>B</td><td>B</td><td>B</td><td></td></tr></tbody></table>	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	B	B	B	
平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度						
B	B	B							
実績	<p>市民病院の隣接地に導入された健康・医療・福祉系施設における、多職種連携による市民の健康増進に向けた健康講座等の具体的な計画等について、岡山市地域ケア総合推進センターと協議を行った。同センターが開催を予定していた「退院支援職員研修会」の開催協力を令和元年度末からしていたが、新型コロナウイルスの影響により開催できず、令和3年度になりweb開催により2回開催された。</p> <p>さらに令和3年度は、市民の健康増進に寄与する新たな取組として、上記のセンターと共催で、「まちかど心不全教室」を開催した。</p>								

5. 予算、収支計画及び資金計画における決算状況

第2期中期計画(平成30年度～令和3年度)予算・収支計画・資金計画における決算状況

1 予算

(単位:百万円)

区分	中期計画	実績	増減 (実績－中期計画)
収入	57,631	60,656	3,025
営業収益	53,945	57,843	3,898
医業収益	48,912	48,440	△ 472
運営費負担金収益	4,792	8,841	4,049
その他営業収益	241	561	320
営業外収益	865	616	△ 249
運営費負担金収益	332	320	△ 12
その他営業外収益	533	297	△ 236
臨時利益	0	0	0
資本収入	2,821	2,197	△ 624
長期借入金	2,821	1,393	△ 1,428
運営費負担金収入	0	0	0
その他資本収入	0	804	804
その他収入	0	0	0
支出	56,863	58,123	1,260
営業費用	48,723	50,557	1,834
医業費用	48,200	49,875	1,675
給与費	27,677	28,195	518
材料費	11,353	12,681	1,328
経費	8,967	8,892	△ 75
研究研修費	203	107	△ 96
一般管理費	523	682	159
営業外費用	726	751	25
臨時損失	0	93	93
資本支出	7,414	6,722	△ 692
建設改良費	3,067	2,493	△ 574
償還金	4,347	4,220	△ 127
その他資本支出	0	9	9
その他支出	0	0	0
収支(収入－支出)	768	2,533	1,765

※ 四捨五入により百万円単位にしているため、計の欄と数値が一致しない場合がある。

2 収支計画

(単位:百万円)

区分	中期計画	実績	増減 (実績－中期計画)
収入の部	54,948	58,691	3,743
営業収益	54,132	58,093	3,961
医業収益	48,725	48,252	△ 473
運営費負担金収益	3,464	7,553	4,089
資産見返運営費負担金戻入	1,545	1,457	△ 88
資産見返受贈額戻入	178	306	128
その他営業収益	220	525	305
営業外収益	816	598	△ 218
運営費負担金収益	332	320	△ 12
その他営業外収益	484	278	△ 206
臨時利益	0	0	0
支出の部	55,156	56,666	1,510
営業費用	52,347	53,638	1,291
医業費用	51,839	52,963	1,124
給与費	28,071	28,401	330
材料費	10,367	11,594	1,227
経費	8,100	8,057	△ 43
減価償却費	5,110	4,811	△ 299
研究研修費	191	100	△ 91
一般管理費	508	675	167
営業外費用	2,809	2,932	123
臨時損失	0	97	97
純利益	△ 208	2,025	2,233
目的積立金取崩額	0	0	0
総利益	△ 208	2,025	2,233

※ 四捨五入により百万円単位にしているため、計の欄と数値が一致しない場合がある。

3 資金計画

(単位:百万円)

区分	中期計画	実績	増減 (実績－中期計画)
資金収入	61,708	70,708	9,000
業務活動による収入	53,482	56,298	2,816
診療業務による収入	48,912	48,043	△ 869
運営費負担金による収入	3,796	7,456	3,660
その他業務活動による収入	774	799	25
投資活動による収入	1,328	8,590	7,262
運営費負担金による収入	1,328	2,089	761
その他投資活動による収入	0	6,501	6,501
財務活動による収入	2,821	1,393	△ 1,428
長期借入金による収入	2,821	1,393	△ 1,428
その他財務活動による収入	0	0	0
前期中期計画からの繰越金	4,077	4,427	350
資金支出	61,708	70,708	9,000
業務活動による支出	49,449	51,116	1,667
給与費支出	28,033	28,887	854
材料費支出	11,353	11,752	399
その他業務活動による支出	10,063	10,478	415
投資活動による支出	3,067	11,909	8,842
有形固定資産の取得による支出	3,067	2,221	△ 846
その他投資活動による支出	0	9,689	9,689
財務活動による支出	4,347	4,222	△ 125
長期借入の返済による支出	3,313	3,186	△ 127
移行前地方債償還債務の償還による支出	1,034	1,034	0
その他財務活動による支出	0	1	1
翌年度への繰越金	4,845	3,461	△ 1,384

※ 四捨五入により百万円単位にしているため、計の欄と数値が一致しない場合がある。

※ 第2期中期計画の4年間で、定期預け入れによる満期解約の総額65億円を「その他投資活動による収入」に計上、また、定期預金への預け入れの総額95億円を「その他投資活動による支出」に計上している。そのため、中期計画と比べて資金が大きく減少しているようになっているが、その差額30億円を加味すると、実際の資金は中期計画と比べて増加する見込みとなる。

6. 主な目標値の達成状況

項番	区分		市民病院					
			H30 年度 実績	R 元年度 実績	R2 年度 実績	R3 年度 実績	中期計画	
第 1	1-(1)	救急患者数		29,966 人	28,263 人	21,640 人	26,910 人	26,000 人
		救急要請応需率 (救急車搬送受入率)		94.7%	91.8%	85.8%	80.0%	90.0%
		手術件数		4,635 件	4,716 件	4,131 件	4,243 件	4,500 件
	2-(1) ア	医療安全研修		20 回	18 回	3 回	4 回	—
	2-(1) イ	院内感染対策委員会開催数		12 回	12 回	12 回	12 (※1) 回	—
	2-(1) ウ	個人情報 保護研修	全職員対象の研修	3 回	0 回 (※2)	0 回 (※2)	0 (※3) 回	—
			新任職員研修	7 回	7 回	4 回	2 回	—
	2-(2)	スキルアップ研修 (全職員対象)		16 回	22 回	6 回	6 回	24 回
		病棟 カンファ レンス	入院時カンファレンス	7,184 回	5,628 回	4,627 回	4,459 回	5,500 回
			その他カンファレンス	1,571 回	1,439 回	1,603 回	1,543 回	1,800 回
	2-(3) イ	クリニカルパス種類数		239	273	250	265	145
		クリニカルパス利用率		44.7%	54.8%	56.0%	59.0%	—
		クリニカルパス大会		5 回	4 回	4 回	3 回	—
		クリニカルパス開発支援会議 ※4		12 回	12 回	12 回	12 回	—
	2-(4)	治験	(継続)	16 件	18 件	21 件	14 件	—
			(新規)	7 件	8 件	4 件	9 件	—
		新薬販売後調査	(継続)	60 件	65 件	35 件	61 件	—
			(新規)	16 件	18 件	15 件	21 件	—
		臨床試験		46 件	63 件	33 件	25 件	—
	3-(1) イ	薬剤管理指導件数 (薬剤管理指導料 I II III, 退院)		16,553 件	16,278 件	15,468 件	15,530 件	—
		無菌製剤処理料件数 (I II)		3,843 件	4,117 件	3,894 件	4,255 件	—
外来化学療法加算数 (I)		1,179 件	1,518 件	1,439 件	1,525 件	—		

項番	区分		市民病院						
			H30 年度 実績	R 元年度 実績	R2 年度 実績	R3 年度 実績	中期計画		
第 3	各種栄養指導合計件数		1,823 件	1,704 件	1,326 件	1,356 件	—		
	入院患者食事相談件数		332 件	414 件	474 件	365 件	—		
	3-(1) ウ	患者満足度調査結果 (満足+やや満足)	入院	92.8%	94.7%	97.8%	97.0%	95.0%	
			外来	92.0%	95.2%	97.9%	97.7%	80.0%	
	4-(1)	紹介率 ※5		63.3%	66.0%	70.0%	60.3%	50.0%	
		逆紹介率 ※6		96.4%	90.7%	95.7%	85.5%	70.0%	
		地域連携クリティカルパス適用 件数		267 件	370 件	379 件	323 件	260 件	
		紹介患者予約件数		7,066 件	7,609 件	5,991 件	6,625 件	—	
		うちカルナコネクトによる予約 (紹介患者受診予約システム)		1,704 件	1,902 件	1,584 件	1,836 件	—	
	4-(2)	在宅復帰率		91.2%	91.2%	89.2%	88.4%	80.0%	
		退院前カンファレンスの開催		781 件	742 件	173 件	99 件	700 件	
		医療機器共同利用 件数	CT	490 件	540 件	393 件	422 件	—	
			MRI	682 件	673 件	525 件	720 件	—	
	5-(1)	大学の研修医・医学生の研修受入 要請に対する応需率		100%	100%	100%	100%	100%	
		研修医・医学生への研修会実施 回数		30 回	12 回	12 回	9 回	12 回	
		研修医が参加するカンファレン スの回数		103 回	91 回	44 回	63 回	80 回	
	6-(1)	地域ケア総合推進センターと入 退院管理支援センターで実施す るカンファレンス		5 回	5 回	7 回	10 回	—	
	6-(2)	栄養管理委員会で行う市民公開 講座実施回数		2 回	2 回	0 回	0 回	—	
	第 2	2-(1)	臨床研修指導医数		53 人	51 人	51 人	52 人	40人
	第 3	1	経常収支比率 ※7		98.9%	100.1%	107.7%	108.2%	100.9%
新入院患者数			9,536 名	10,147 名	8,135 名	8,187 人	—		
入院・外来手術料合計 (麻酔関連を除く)			1,647,777 千円	1,690,127 千円	1,453,416 千円	1,554,046 千円	—		
2		病床稼働率 ※8		98.1%	96.9%	73.7% (79.0%)	76.6% (84.7%)	94.6%	

項番	区分	市民病院				
		H30 年度 実績	R 元年度 実績	R2 年度 実績	R3 年度 実績	中期計画
	平均在院日数	13.6 日	13.0 日	12.0 日	12.7 日	12.7 日
	経常収支比率 ※9	99.4%	100.9%	108.6%	107.5%	101.2%
	医業収支比率	92.6%	94.6%	86.8%	91.3%	98.0%
	給与費比率 ※9	56.8%	54.7%	61.5%	57.5%	54.8%

※1 うち2回は書面で対応した。

※2 新型コロナ流行に鑑み、代替としてポータルサイトに資料を掲載して周知した。

※3 新型コロナ流行に鑑み、代替としてポータルサイトに研修動画とアンケートを掲載した。

※4 令和元年度に「クリニカルパス委員会」から「クリニカルパス開発支援会議」へ名称変更。

※5 紹介率 = (紹介患者数 / 初診患者数) × 100

※6 逆紹介率 = (逆紹介患者数 / 初診患者数) × 100

※7 岡山市立総合医療センターとしての目標値

※8 病床稼働率 = (在院患者延べ数 + 退院患者数) × 100 / (届出病床数 × 日数)

在院患者延べ数とは24時現在に入院中の患者の延べ数

病床稼働率欄の()内は、新型コロナ対応病床(感染対策工事による休床分を含む)を除いて計算。

※9 法人本部に係る費用(一般管理費)を除く。なお、令和元年度から人事課及び財務課が、市民病院から法人本部へ所管替えとなっている。

※ 中期計画欄について 第2期中期計画の最終年度(令和3年度)目標値を記載。ないものは空欄とした。

項番	区分	せのお病院						
		H30 年度 実績	R 元年度 実績	R2 年度 実績	R3 年度 実績	中期計画		
第 1	1-(2) ア	紹介率 ※1	49.6%	55.7%	78.9%	68.6%	40.0%	
		逆紹介率 ※2	60.7%	58.8%	95.8%	98.5%	57.0%	
		病棟カンファレンス	717 回	744 回	1,088 回	1,009 回	380 回	
	1-(2) エ	地域医療機関等の参加する 講演会開催数	4 回	4 回	0 回	4 回	4 回	
	4-(1)	紹介率 ※1 (再掲)	49.6%	55.7%	78.9%	68.6%	40.0%	
逆紹介率 ※2 (再掲)		60.7%	58.8%	95.8%	98.5%	57.0%		
第 3	2	病床稼働率 ※3	一般病床 ※4	35.0%	—	—	—	94.0%
			地域包括ケア 病床	83.0%	88.5%	86.6%	86.9%	94.0%
	平均在院日数	一般病床 ※4	7.1 日	—	—	—	17.0 日	
		地域包括ケア 病床	30.7 日	34.8 日	36.7 日	36.9 日	60.0 日以内 ※5	
	経常収支比率	104.8%	111.4%	115.7%	118.2%	110.8%		
	医業収支比率	80.1%	87.3%	90.6%	92.0%	86.0%		
	給与費比率	86.0%	78.7%	75.4%	73.2%	76.3%		

※1 紹介率 = (紹介患者数/初診患者数) × 100

※2 逆紹介率 = (逆紹介患者数/初診患者数) × 100

※3 病床稼働率 = (在院患者延べ数 + 退院患者数) × 100 / (届出病床数 × 日数)
在院患者延べ数とは 24 時現在に入院中の患者の延べ数

※4 せのお病院の一般病床は、平成 30 年 5 月から全て地域包括ケア病床に転換している。

※5 診療報酬算定における地域包括ケア病棟入院料の算定限度日数を目標値としている。

※ 中期計画欄について 第 2 期中期計画の最終年度 (令和 3 年度) 目標値を記載。ないものは空欄とした。

地方独立行政法人岡山市立総合医療センター業務実績評価の基本方針

平成30年6月27日策定

地方独立行政法人法（平成15年法律第118号。以下「法」という。）第28条第1項の規定に基づく地方独立行政法人岡山市立総合医療センター（以下「法人」という。）の業務実績に関する評価（以下「評価」という。）については、以下の方針に基づき行うものとする。

なお、評価を実施するに当たっては、法第28条第4項及び地方独立行政法人岡山市立総合医療センター評価委員会条例（平成25年市条例第10号）に基づき、地方独立行政法人岡山市立総合医療センター評価委員会（以下「評価委員会」という。）の意見を聴くものとする。

1. 基本方針

- (1) 評価は、法人が実施する業務の公共性に鑑み、また、業務運営の透明性を確保する観点から行う。これにより、中期目標の達成のために、法人の業務運営の改善及び効率化が進められること及び法人の質的向上に資することを目的とする。
- (2) 評価は、年度計画及び中期計画の実施状況を確認及び分析し、法人の業務運営等について総合的に判断して行うものとする。
- (3) 評価に当たっては、単に実績数値にとらわれることなく、年度計画及び中期計画を達成するために行った業務運営の改善や効率化等の特色ある取り組みや工夫についても考慮し、積極的に評価する。
- (4) 評価の方法については、法人を取り巻く環境変化などを踏まえ柔軟に対応するため、必要に応じて見直しを行うこととする。
- (5) 評価を受けることにより法人が改善・見直しを行い、次年度及び次期中期目標期間の計画及び行動に評価結果を反映させる「法人におけるPDCAサイクル」を機能させることを念頭において評価を行う。

2. 評価方法

(1) 評価の種類

評価は、各事業年度終了時に実施する「年度評価」と、中期目標の期間の最後の事業年度の直前の事業年度終了時に実施する「中期目標期間見込評価」、中期目標の期間終了時に実施する「中期目標期間評価」とし、それぞれ「項目別評価」と「全体評価」により行うこととする。

(2) 年度評価

中期計画及び年度計画に記載されている小項目、大項目及び全体について評価を行う。

なお、年度評価に係る評価基準等の詳細については、別途実施要領で定めるものとする。

ア. 項目別評価

各事業年度における業務の実績について、法人による自己評価の結果を踏まえ、項目別評価（小項目及び大項目）を行う。

イ. 全体評価

項目別評価の結果を踏まえ、年度計画の実施状況、中期計画の進捗状況その他業務運営全体について総合的に評価する。

(3) 中期目標期間見込評価

中期目標及び中期計画に記載されている大項目及び全体について評価を行う。

なお、中期目標期間見込評価に係る評価基準等の詳細については、別途、実施要領で定めるものとする。

ア. 項目別評価

中期目標の期間の終了時に見込まれる中期目標の期間における業務の実績に係る自己評価の結果を踏まえ、中期目標の達成状況等について項目別評価（大項目）を行う。

イ. 全体評価

項目別評価の結果を踏まえ、中期目標の期間の終了時に見込まれる中期目標の期間における業務運営全体について総合的に評価する。

(4) 中期目標期間評価

中期目標及び中期計画に記載されている大項目及び全体について評価を行う。

なお、中期目標期間評価に係る評価基準等の詳細については、別途、実施要領で定めるものとする。

ア. 項目別評価

中期目標の期間における業務の実績に係る自己評価の結果を踏まえ、中期目標の達成状況等について項目別評価（大項目）を行う。

イ. 全体評価

項目別評価の結果を踏まえ、中期目標の期間における業務運営全体について総合的に評価する。

3. 評価の進め方

(1) 法人からの報告書の提出

法人は、法第28条第2項に基づく報告書（以下「業務実績報告書」という。）の提出に際し、各事業年度の業務実績報告書においては、年度計画に記載されている小項目などについて法人が行った自己評価をあわせて記載するものとし、中期目標の期間の終了時に見込まれる中期目標の期間における業務実績報告書及び中期目標の期間における業務実績報告書においては、中期目標及び中期計画に記載されている大項目などについて法人が行った自己評価をあわせて記載するものとする。

(2) 評価の実施

市長は、提出された業務実績報告書をもとに、必要に応じて法人から意見聴取や追加資料の提供を受け、これらを踏まえて業務の実施状況を確認及び分析し、評価委員会の意見を聴いた上で、総合的な評価を行う。

(3) 意見申立て機会の付与

市長は、評価結果の決定に当たり、法人に対し評価結果（案）に対する意見申立ての機会を付与する。

4. 評価結果の活用

- (1) 法人は、評価結果や業務改善等の命令を受けて、法人として取り組む事項を明確にし、改善に取り組むとともに、状況を市長に報告する。
- (2) 法人の業務の継続又は組織の存続の必要性等に関する検討、次期中期目標及び中期計画の策定に関しては、中期目標期間の各年度の評価結果を踏まえるものとする。

地方独立行政法人岡山市立総合医療センター中期目標期間評価実施要領

平成30年6月27日策定

地方独立行政法人法第28条の規定に基づく地方独立行政法人岡山市立総合医療センター（以下「法人」という。）の中期目標の期間における業務実績に関する評価（以下「中期目標期間評価」という。）を実施するに当たっては、「地方独立行政法人岡山市立総合医療センター業務実績評価の基本方針」に基づき、以下の要領により実施する。

1. 評価方法

中期目標期間評価は、法人から提出された中期目標の期間における業務実績を明らかにした報告書（以下「中期目標期間業務実績報告書」という。）等をもとに、「項目別評価」及び「全体評価」により行う。

評価結果は、別に定める「評価結果報告書」に記載するものとする。

2. 項目別評価（大項目評価）の具体的方法

「項目別評価」は、中期目標に掲げる「第2から第5」の大項目ごとに、当該期間における中期目標の達成状況等について、法人が次の5段階の評語を付して自己評価を行い、中期目標期間業務実績報告書を作成、市長に提出する。市長は、地方独立行政法人岡山市立総合医療センター評価委員会（以下「評価委員会」という。）の意見を聴いた上で、法人の自己評価と同様に次の5段階の評語を付して評価を行う。

- 5：中期目標を大幅に上回る特筆すべき状況にある。
- 4：中期目標を達成した。
- 3：中期目標を概ね達成した。
- 2：中期目標を十分に達成できていない。
- 1：中期目標を大幅に下回っている。

3. 全体評価の具体的方法

項目別評価（大項目評価）の結果を踏まえ、当該中期目標期間における業務実績全体について、記述式による総合的な評価を行う。

また、項目別の結果とともに、主な取組や特色ある取組及び特に優れている点等特筆すべき取組についても記載するものとする。

さらに、業務実施状況に対する評価委員会の意見や改善すべき事項に対する指摘を評価結果報告書に記載するとともに、特に重大な改善事項については必要な措置を講ずることを命ずるものとする。

